

KODAK
LICENSED PRODUCT

M

Y

G

KODAK Gray Scale



茶湯扱傳圖式

盆點之部
袋茶扱之部
茶天目部
亭之振部
三

後 9
627
2



門ヲ9
載
卷

茶

茶之湯秘傳圖式卷之三

茶

盆點此書

三寸大盆點此書

四寸大盆點此書

一尺寸本傍子出好去此盆點此書

四寸寸小及是盆點此書

四寸柄柄盆點此書

四寸寸柄柄盆點此書

四寸寸柄柄盆點此書

四寸寸柄柄盆點此書

四寸寸柄柄盆點此書

凡炉盆點此書

木揚手其子盆點此書

長板凡炉盆點此書

備茶碗之書

備棚莊袋茶碗此書

凡平寸小及基備茶碗此書

凡柘橋方寸備茶碗此書

凡高子袋茶碗此書

之五寸大袋茶碗此書

一五寸大袋茶碗此書

凡炉袋茶碗此書

其子袋茶碗此書

其天月乃也

凡五寸大袋茶碗此書

之五寸大袋茶碗此書

一五寸大袋茶碗此書

凡五寸大袋茶碗此書

凡五寸大袋茶碗此書

凡五寸大袋茶碗此書

凡五寸大袋茶碗此書

凡五寸大袋茶碗此書

凡五寸大袋茶碗此書

亭主振之類

梅板次子事

惣一之茶具炭此道具板板此事

通此次身此事

莊此事

鍍此間此事

街成之次身此事

家素者所茶之下時此事

貴人應言答此事

水步板此事

之水鉢此初慈此事

石燈籠此事

踏地以燈此事

寸寸連九板此事

不時此客之事

困炉裏風爐板此事

困炉裏縁此事

莊子此事

侘人亭主振此事

菓子振蘇此事

刀脇指口傳此事

續口切此事

冬に蓋はまゝ事

斤口極此事

数寄の唇也替戸此事

浴池うら(極此事)

数寄屋腰懸侍合此付所の本式此事

数寄屋浴池掛 又は此馬八此事

二より大盆點之事

此の先の茶碗と九拵土水盆此の蓋を入る

お茶此とく香居居居て

時更云又茶碗拵此とく九拵

茶入たる九下

よ玉備ぬぐ事

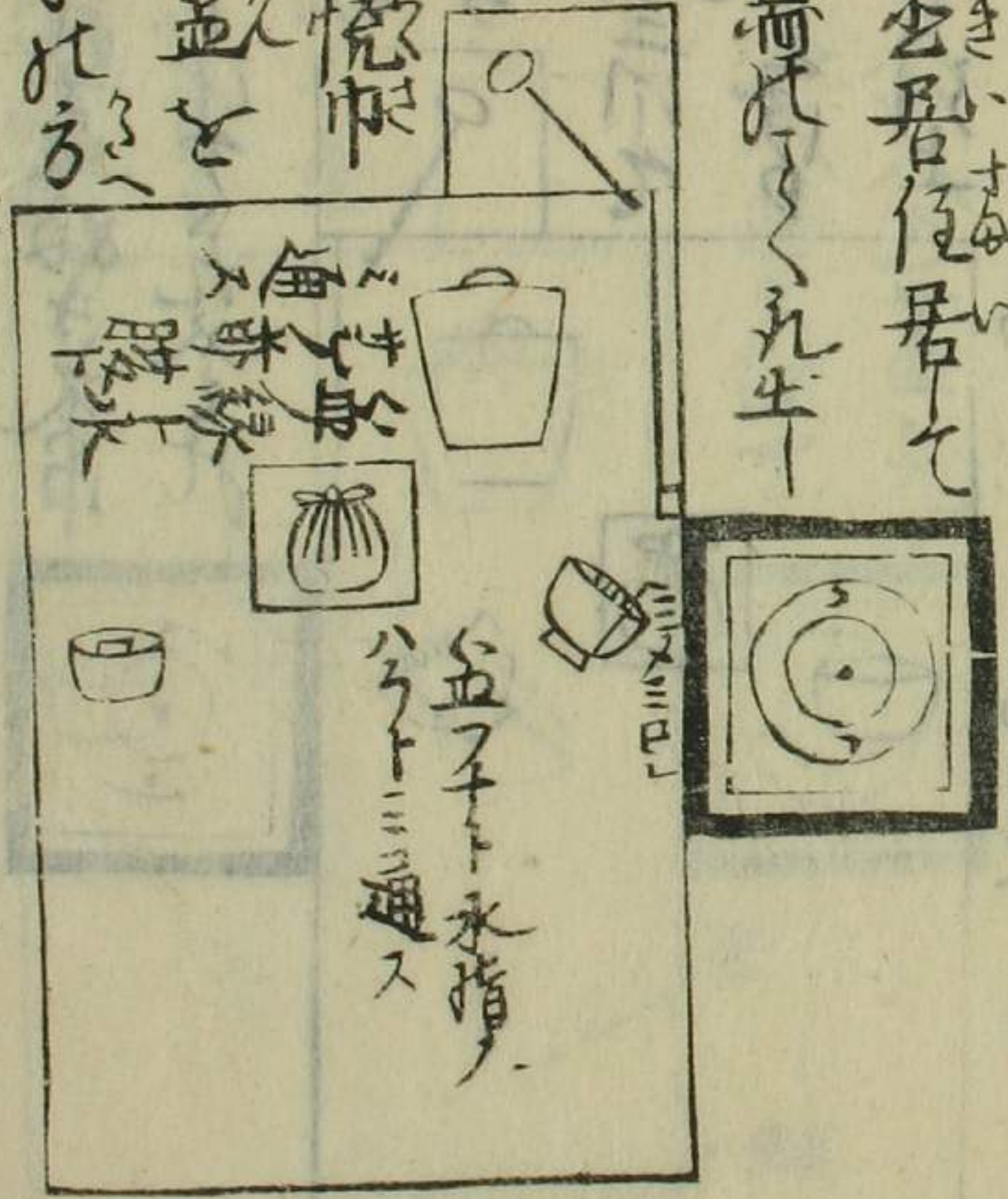
茶碗此拵(玉惚巾)

九拵一丸茶盆と

か上向(茶盆)拵

か上向(茶盆)拵はぬき置きすて此方を立一拵

切縁(盆)と置(茶盆)拵はたため丸茶入九上拵



院中ハ懐中してたし茶入盆蓋蓋又院中九巾一
 下はたの茶抄九巾き帯はく置茶登九巾一帯

の下は茶抄九巾蓋ぬき茶巾
 上茶碗九巾一ひき九巾九巾

蓋九陽二物抄
 入茶抄九巾蓋しあ

茶登九陽次三巾七
 下二杯き又帯三巾七

上又陽次二巾七上
 帯はあはし茶巾飯茶碗飯揚推ぬき下三巾一帯

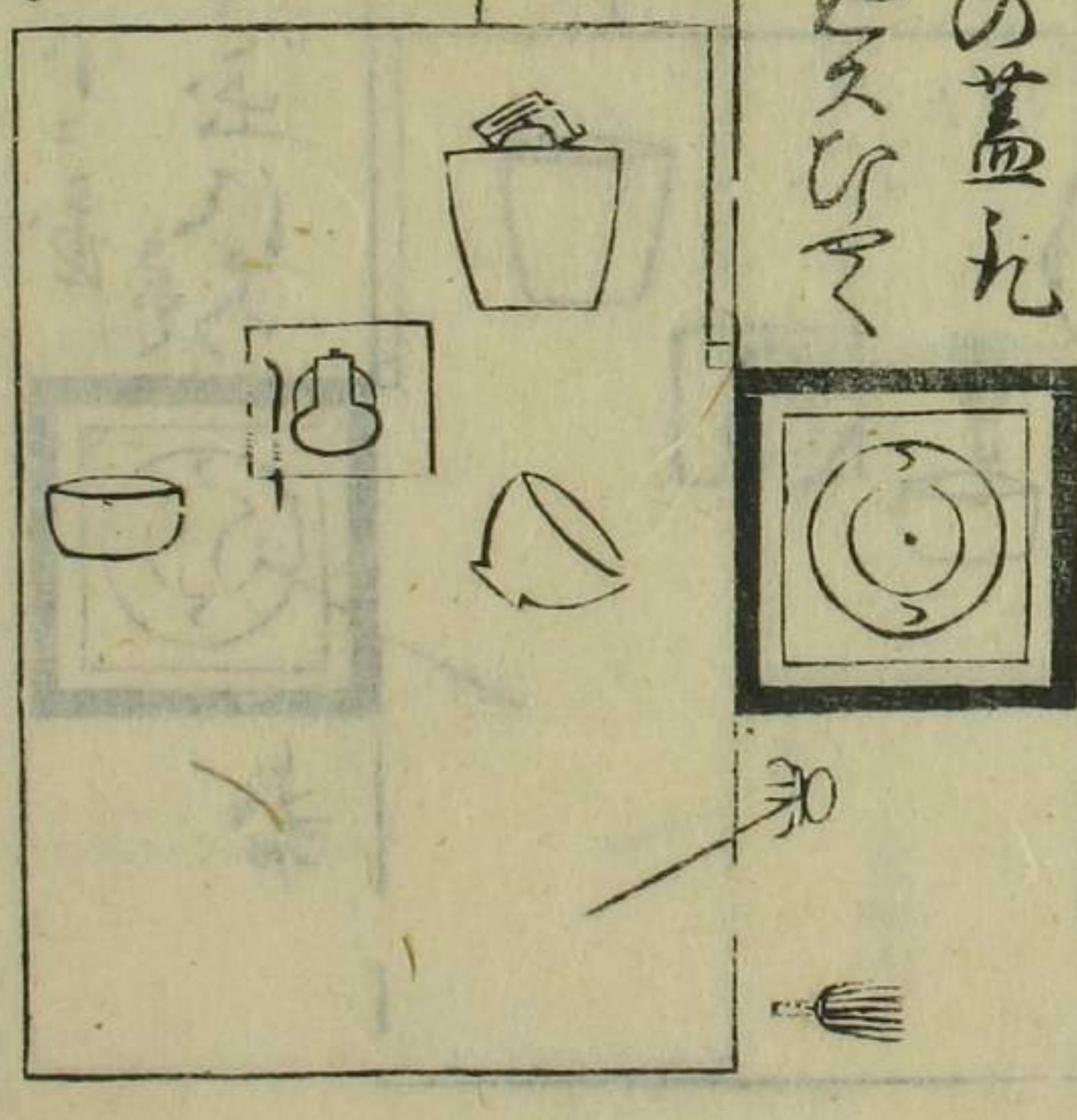
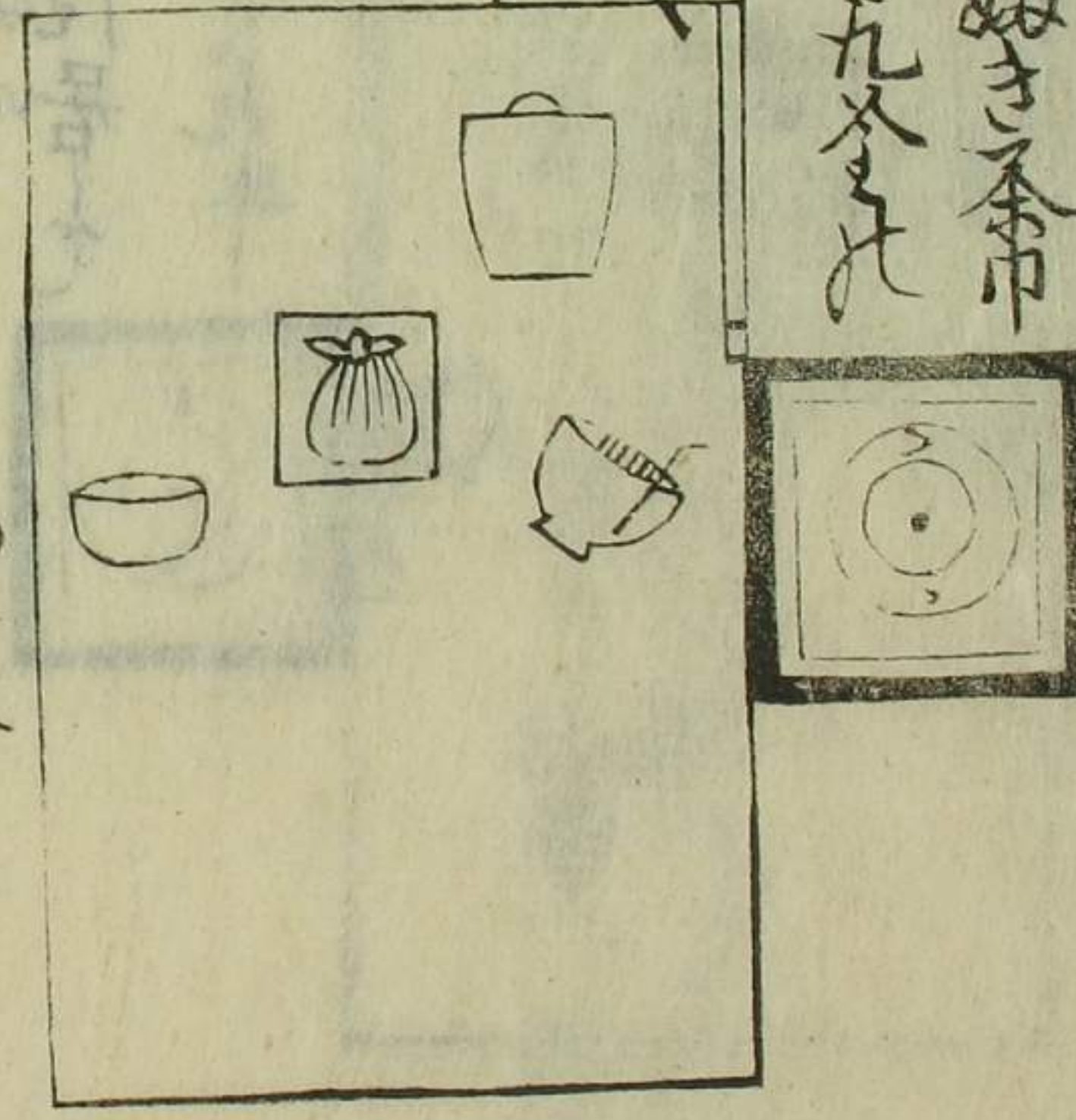
下二杯き又帯三巾七
 入茶抄九巾蓋しあ

碗に茶たし茶入の蓋九
 してたし又茶入返えひて

九蓋九陽
 入茶登九巾七

川上水盆此上三垂
 盆蓋九陽此上三垂

院中巾一茶碗か
 茶抄中三巾一帯此通茶碗うるとぬくと
 足巾とす下三垂九巾



湯すきこしてそ茶を又さらけ湯れ下こす
ほれすきと湯れ通也茶入る時ひげれすきか

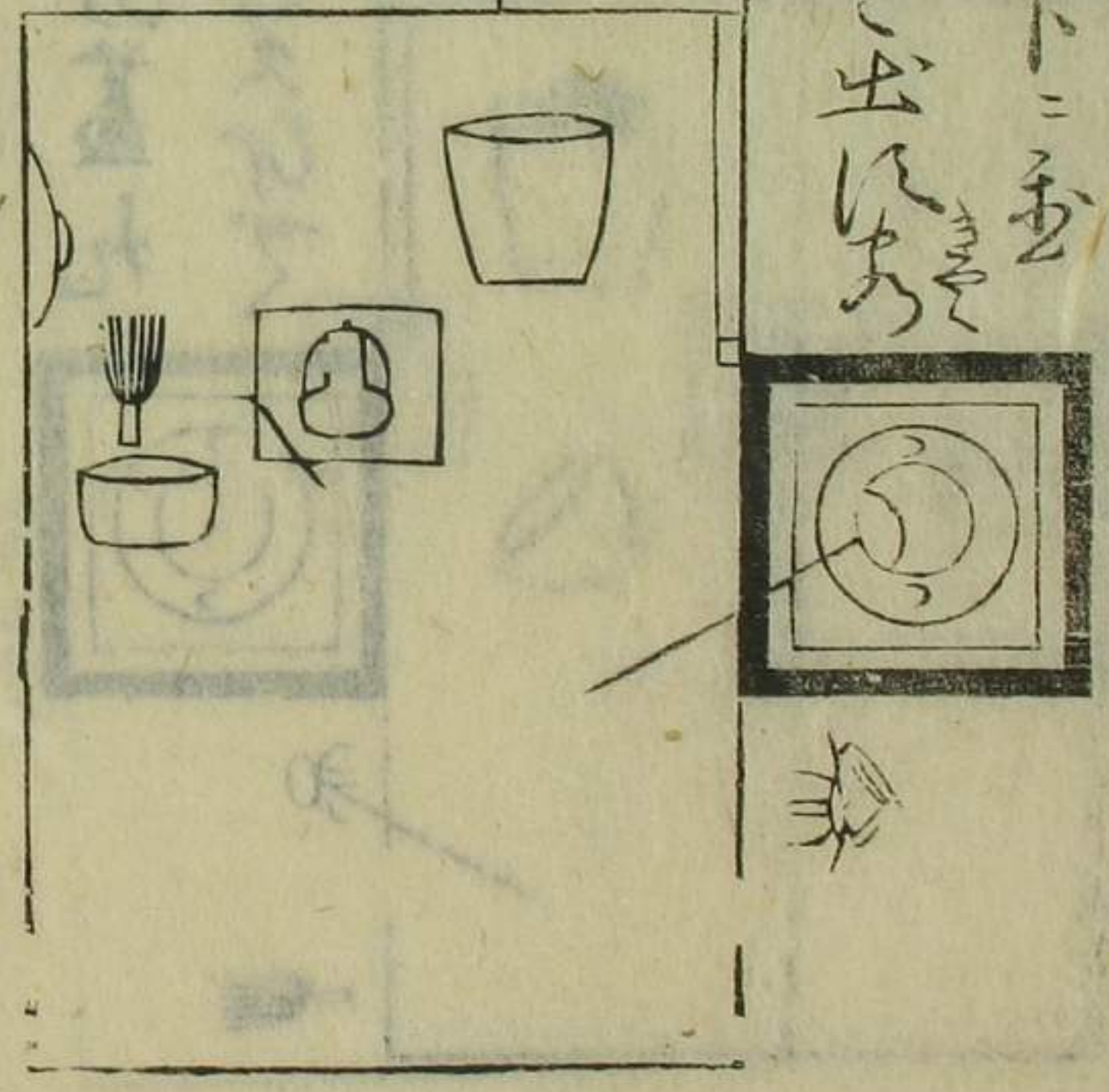
一右に茶入丸下こす
慌巾丸出ぬき出はる

しと又慌
巾にお丸

おれくぬく
お出スお慌巾と

おとすまき出ス
そ外通具丸入

一右場はれと懸しぬきすき茶入る
の上へお又時丸の遠きせよの場とす



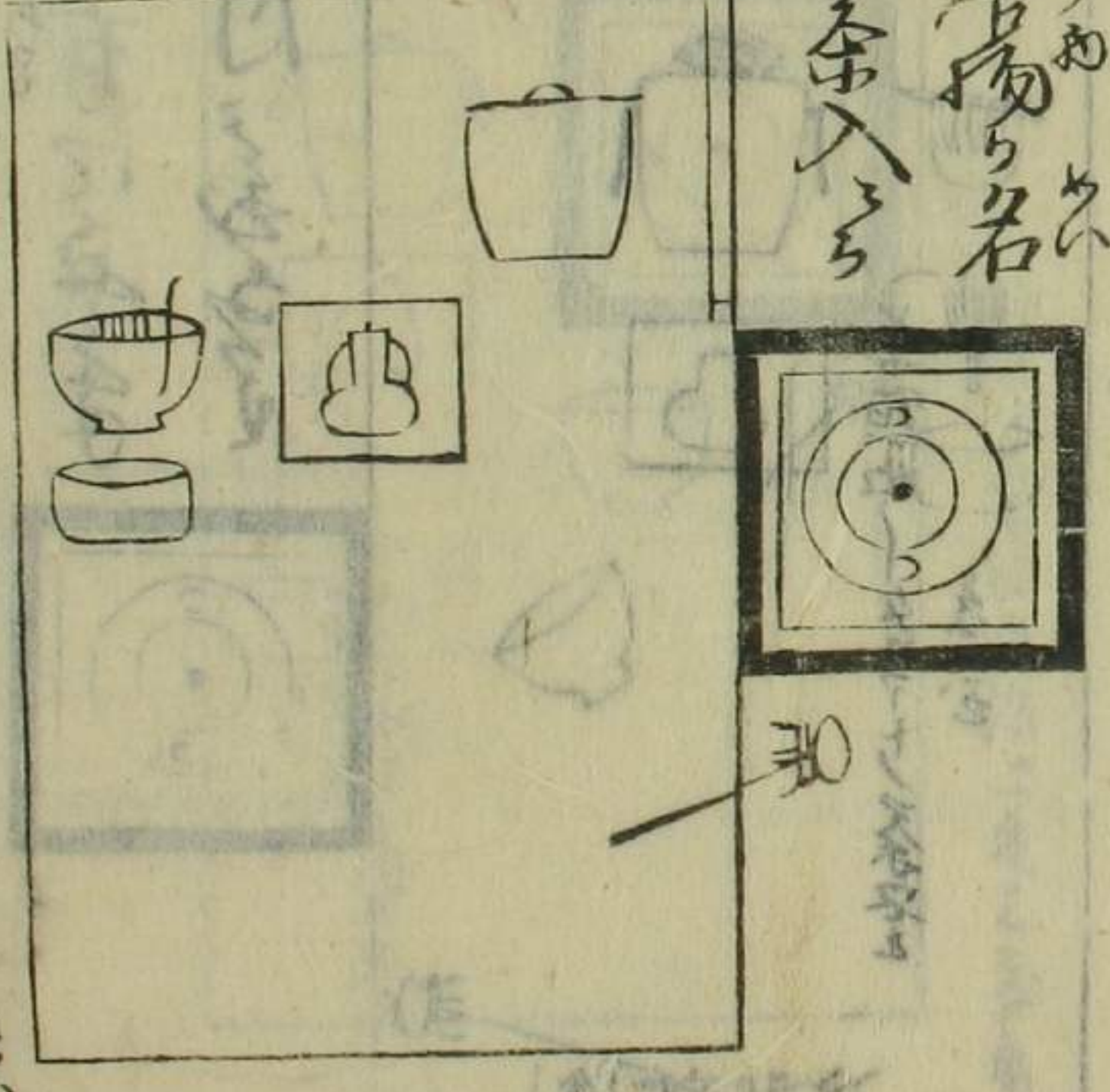
お丸
懸しぬき
茶入る
すき

入る丸
懸しぬき

茶入る丸
懸しぬき

茶入る丸
懸しぬき
茶入る丸
懸しぬき

茶入る丸
懸しぬき



一 茶の点茶小及茶盆點之事

一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

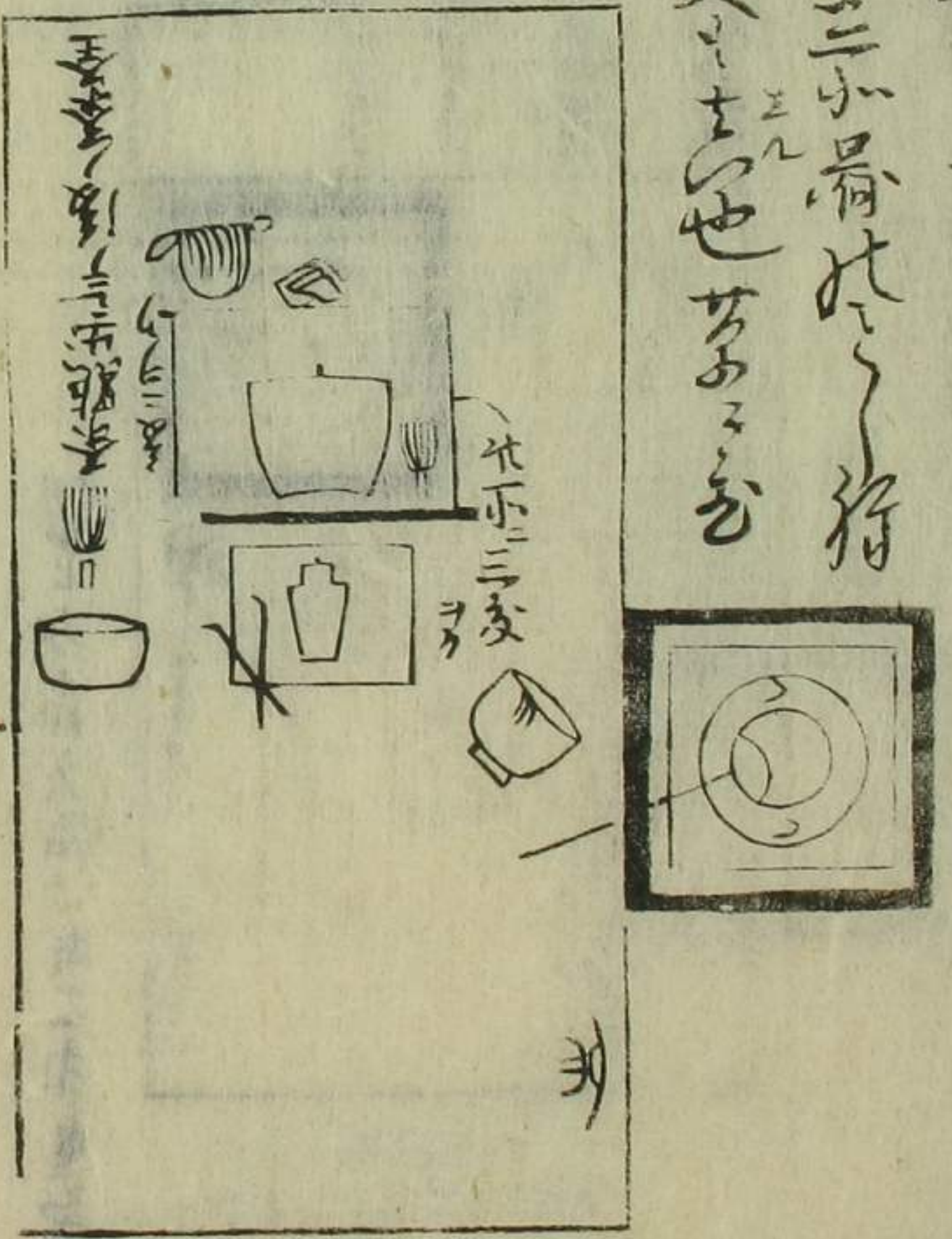
一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事



茶の点茶之事

一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

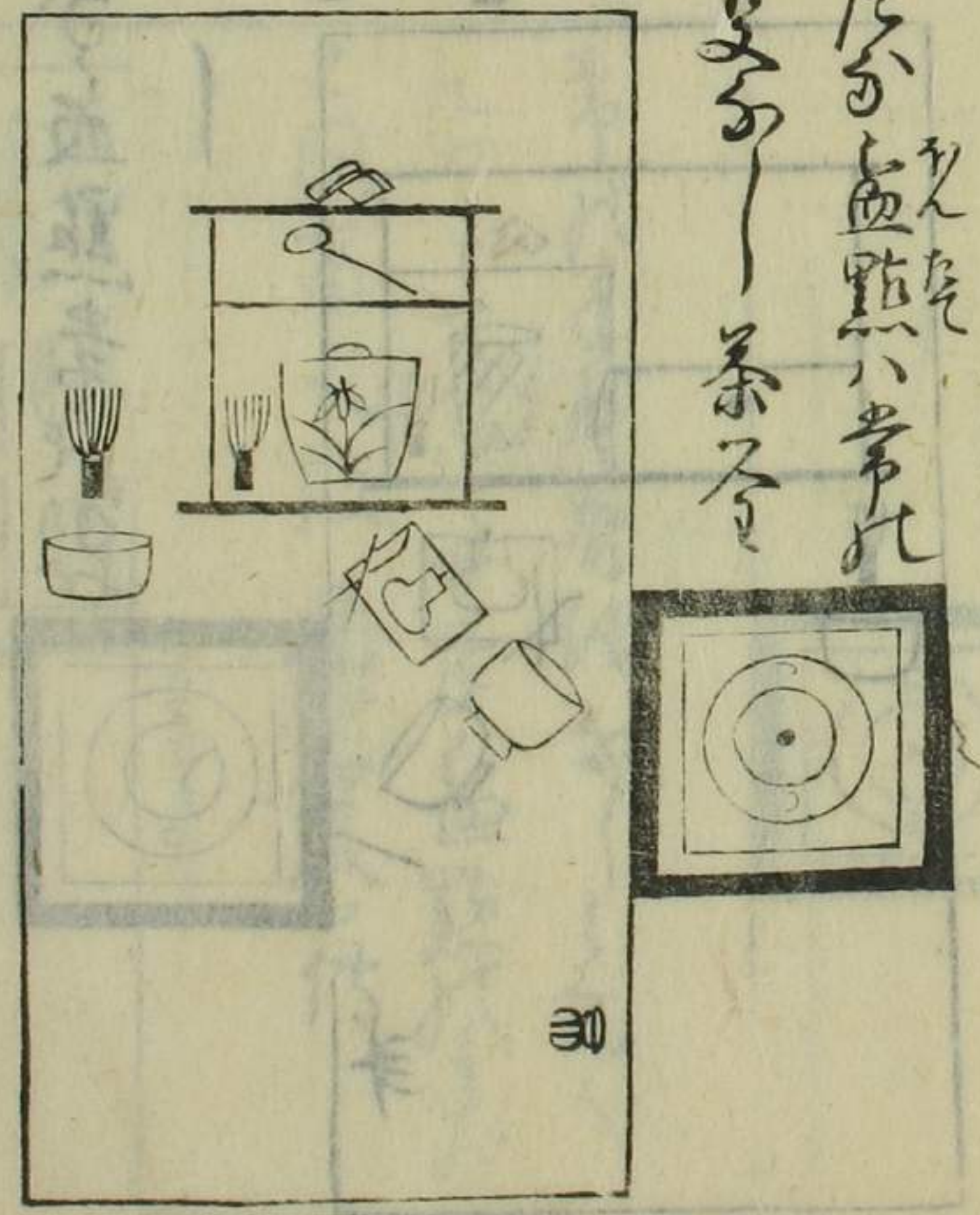
一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

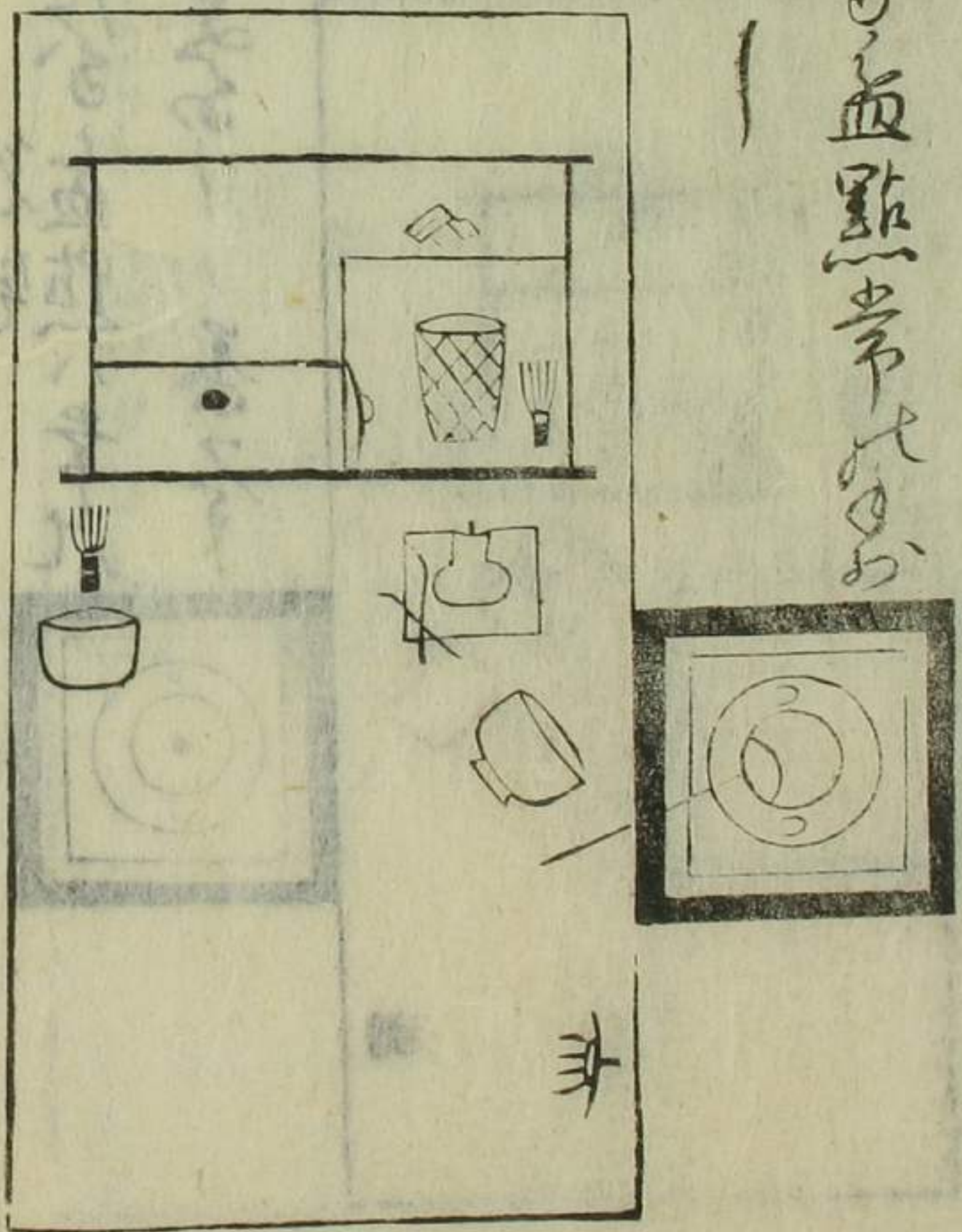


一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

一 茶の点茶の事
 一 茶の点茶の事

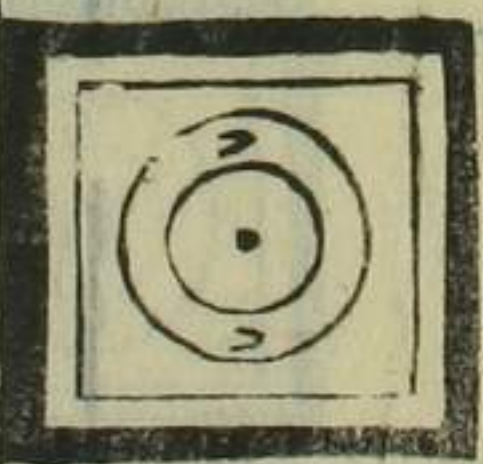
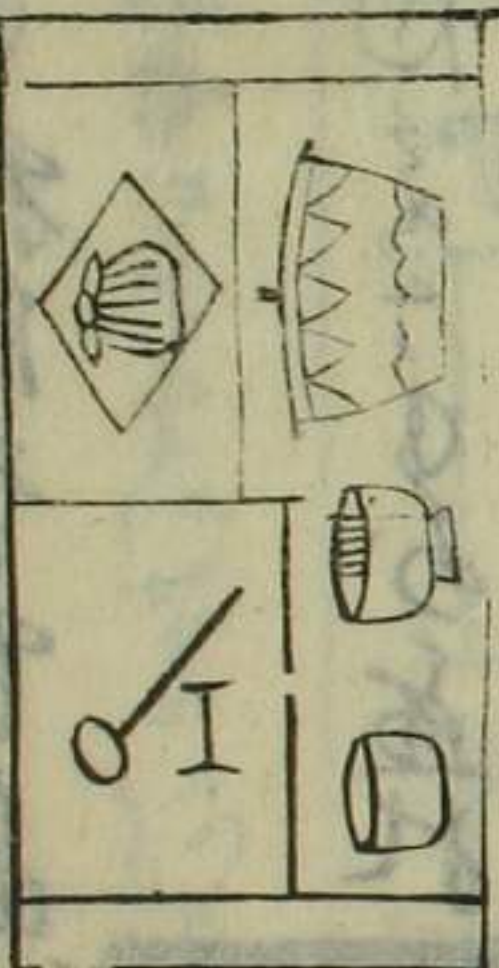
口をくす儀棚盆點之事

- 一 竹の儀たか盆點常たか
- よひのたか
- 一 右揚子同事
- 茶此のたか
- 茶すの盆上
- 新茶をたか
- 九う一茶入口



口をくす儀部堂古盆點之事

常たか盆點常たか
 九出して八口をくす盆點常たか
 と同事人故盆點常たか



何れも利休の古も魚點此事

一 此の如く水筒内を以て魚を煮

進言答ふ事

煮る事

か

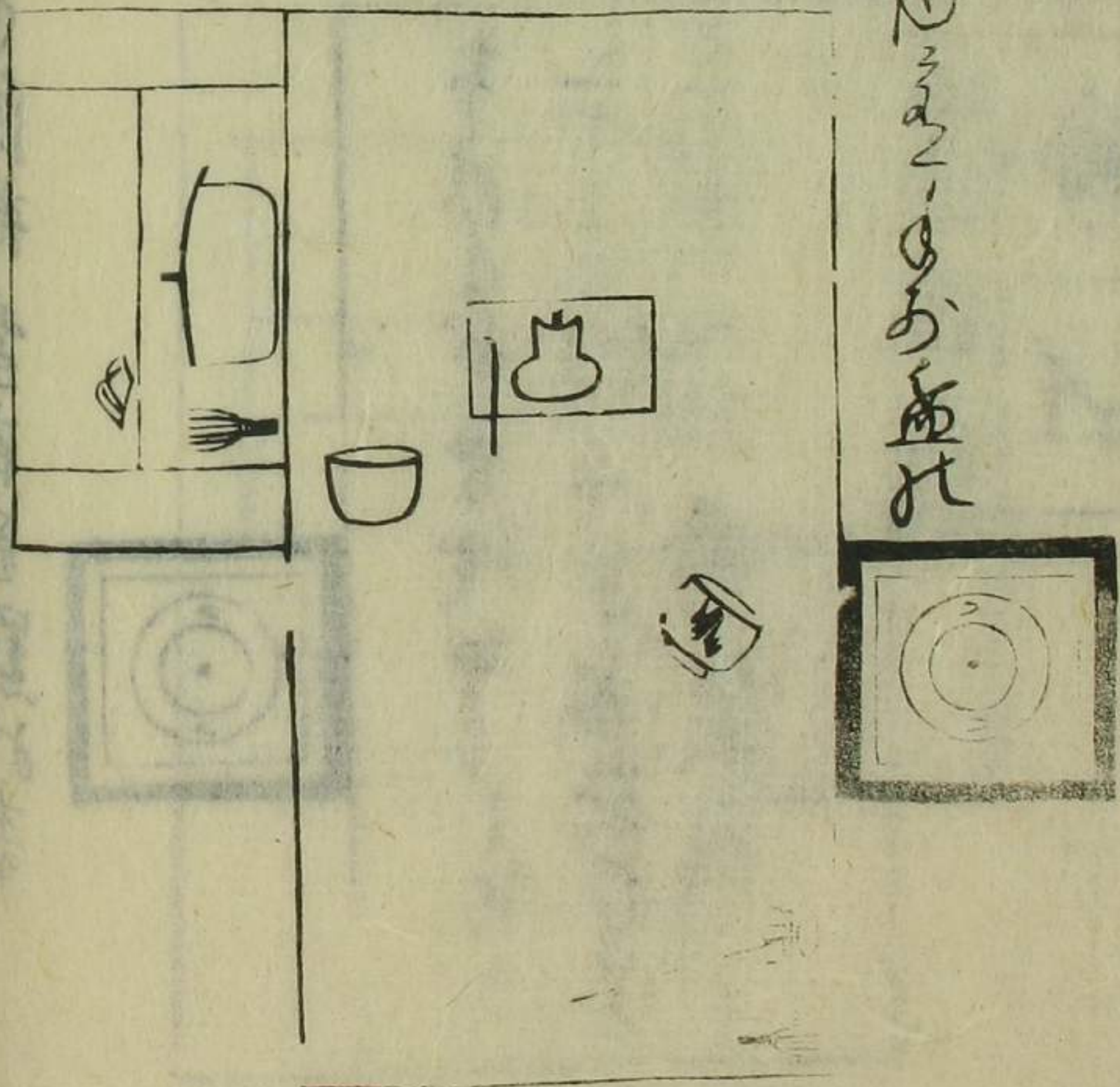
一 竹葉をたし水

煮たり

煮たり

煮たり

魚點此事



一 此の如く魚點此事

煮たり

煮たり

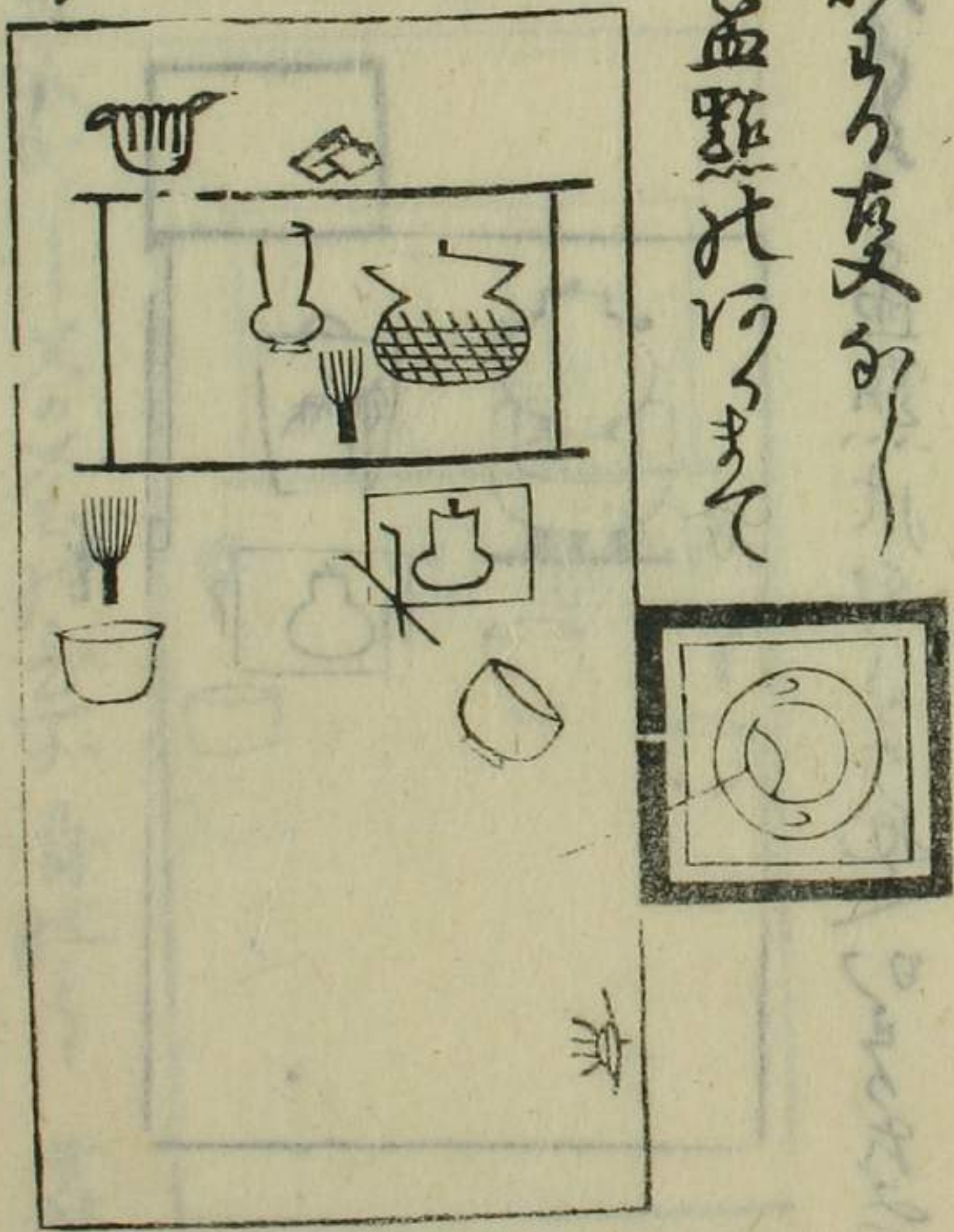
煮たり

煮たり

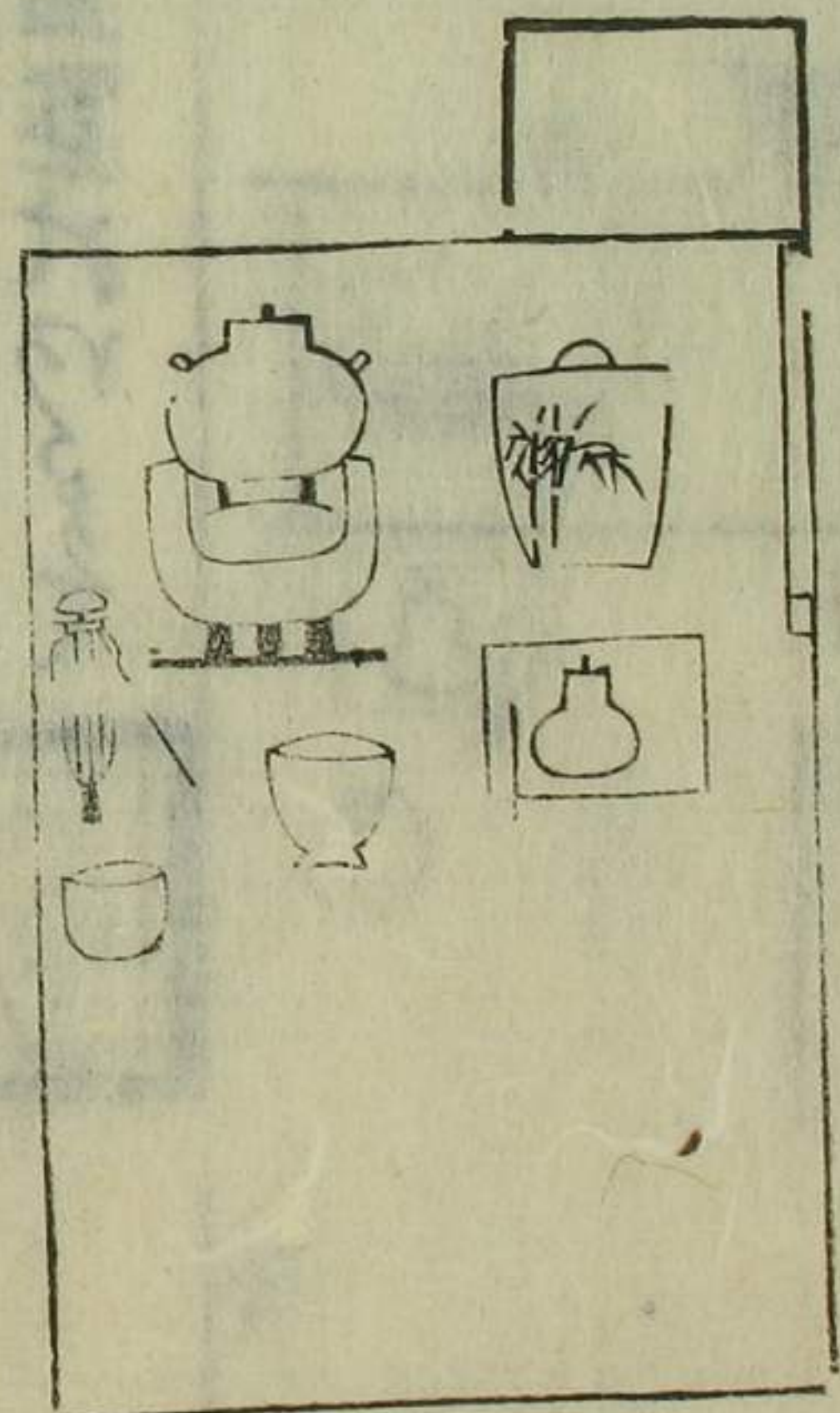
煮たり

煮たり

煮たり

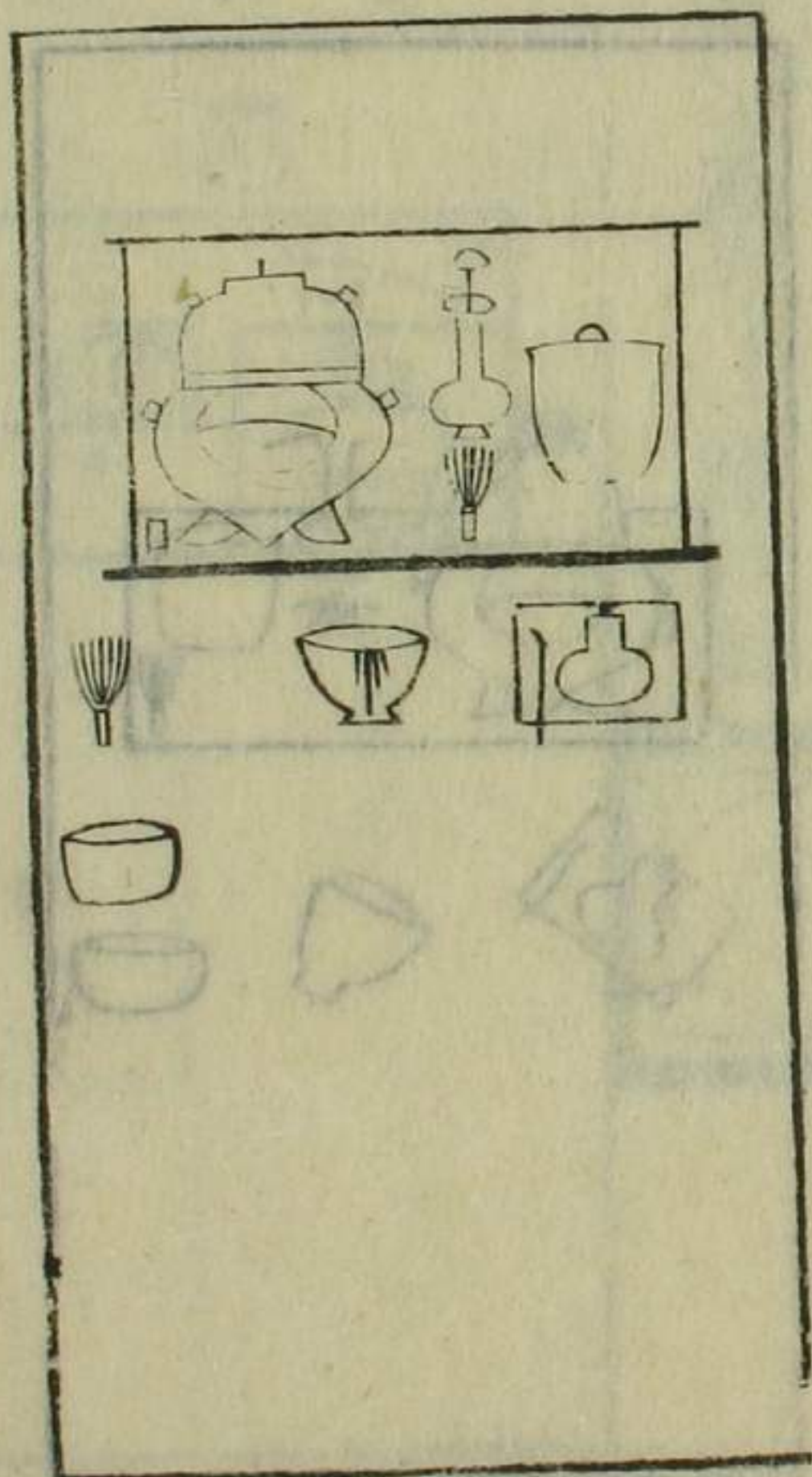


又都之孟點之事



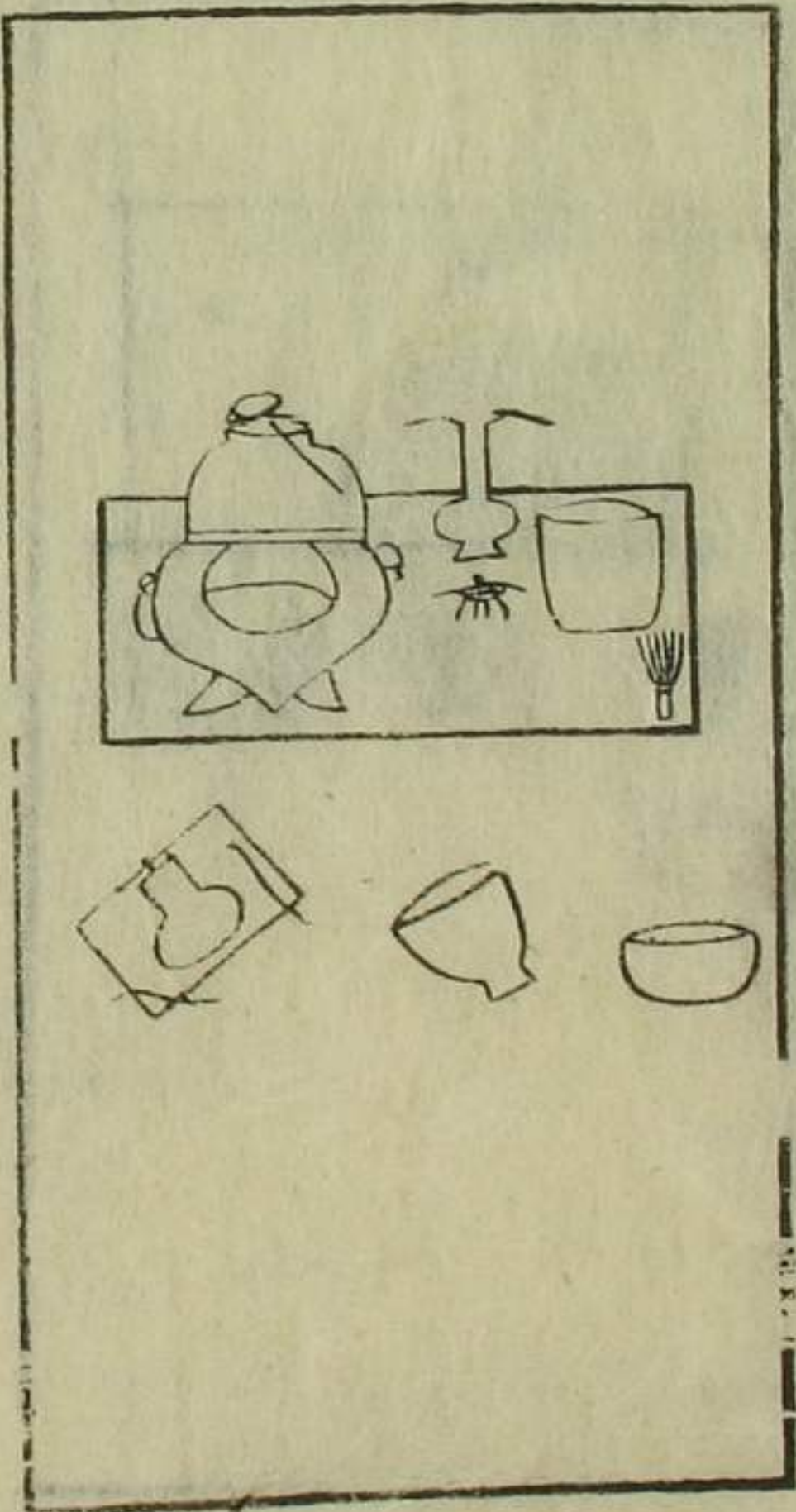
一 けりてふも、れんか、孟點此行るに、
各よりけりてふも、れんか、孟點此行るに、
各よりけりてふも、れんか、孟點此行るに、
各よりけりてふも、れんか、孟點此行るに、

本後子其子孟點之事



一 けりてふも、れんか、孟點此行るに、
各よりけりてふも、れんか、孟點此行るに、
各よりけりてふも、れんか、孟點此行るに、
各よりけりてふも、れんか、孟點此行るに、

也板只部もふれ事



一 茶の太極より少くもふり置置るより少くも水は冷たし
と物移立此上より却て何れも是より口付

備棚袋茶碗此事

一 茶の太極巾襦い居て出先茶入水持此方へは
桐袋此戸寄此方と付て携ゆ
といふも水盛と取生一器此如



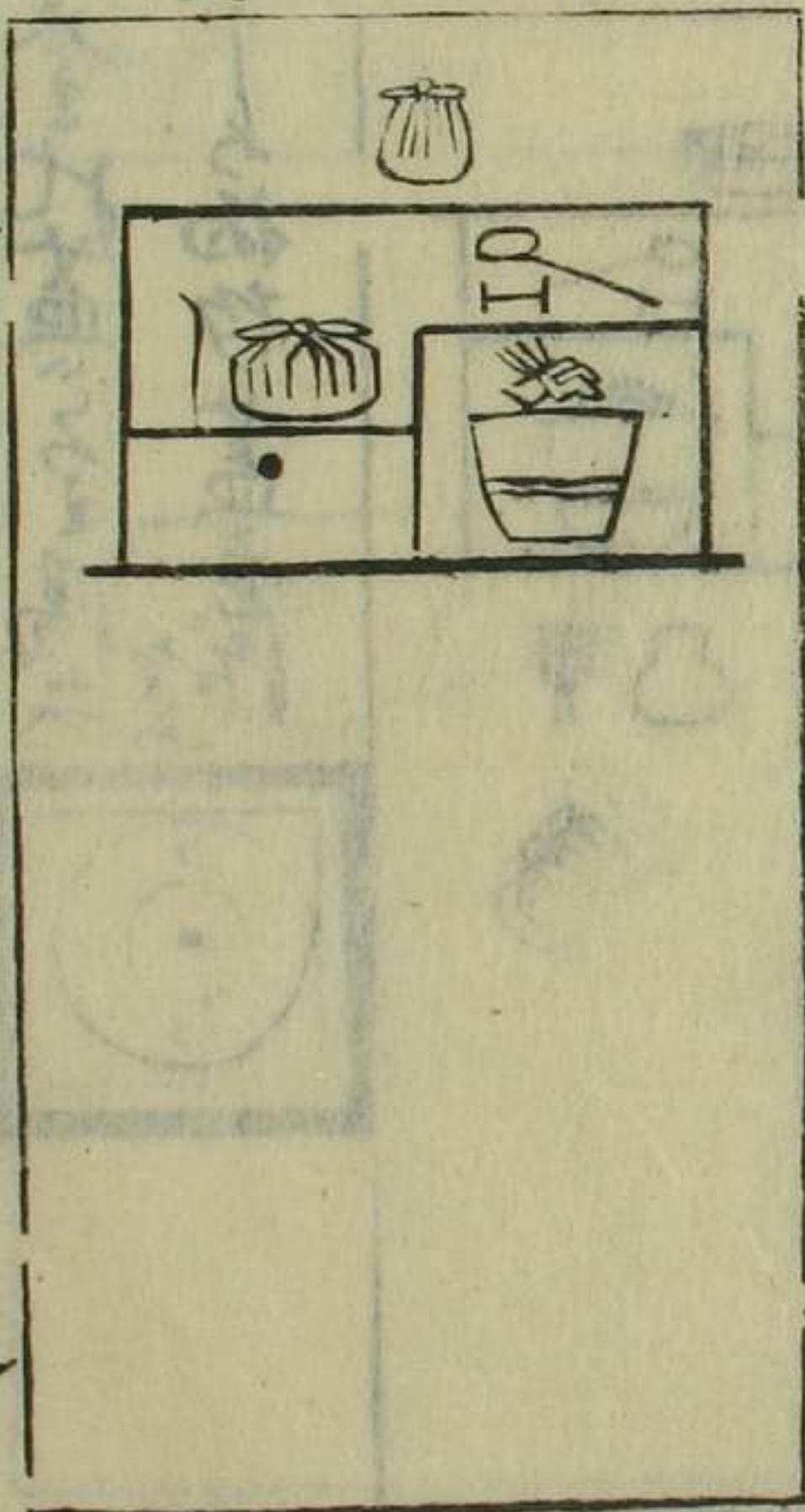
金吾重と居

徑吾一七時

茶入九出ー袋

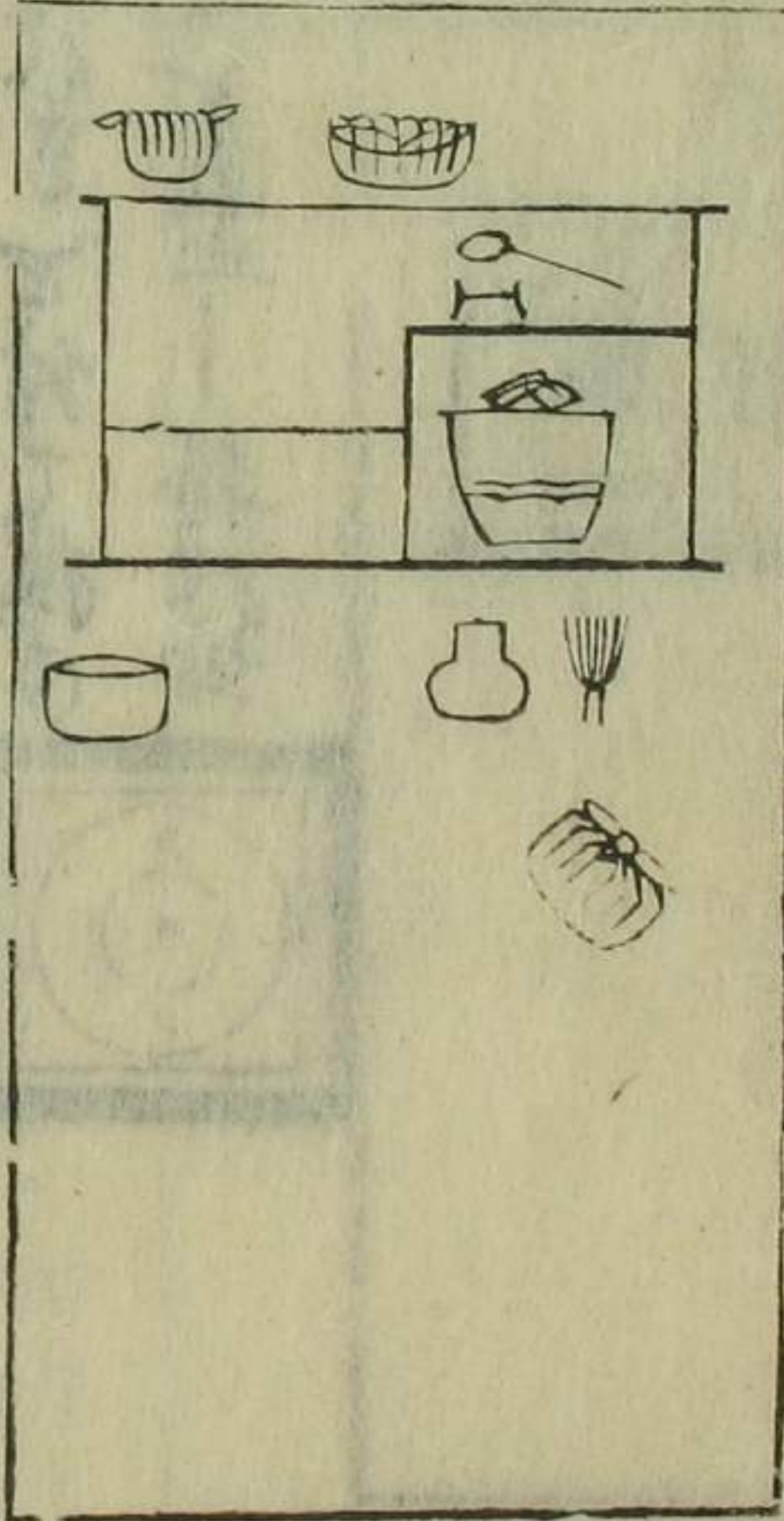
ぬ襦帛巾

して茶入巾ひ

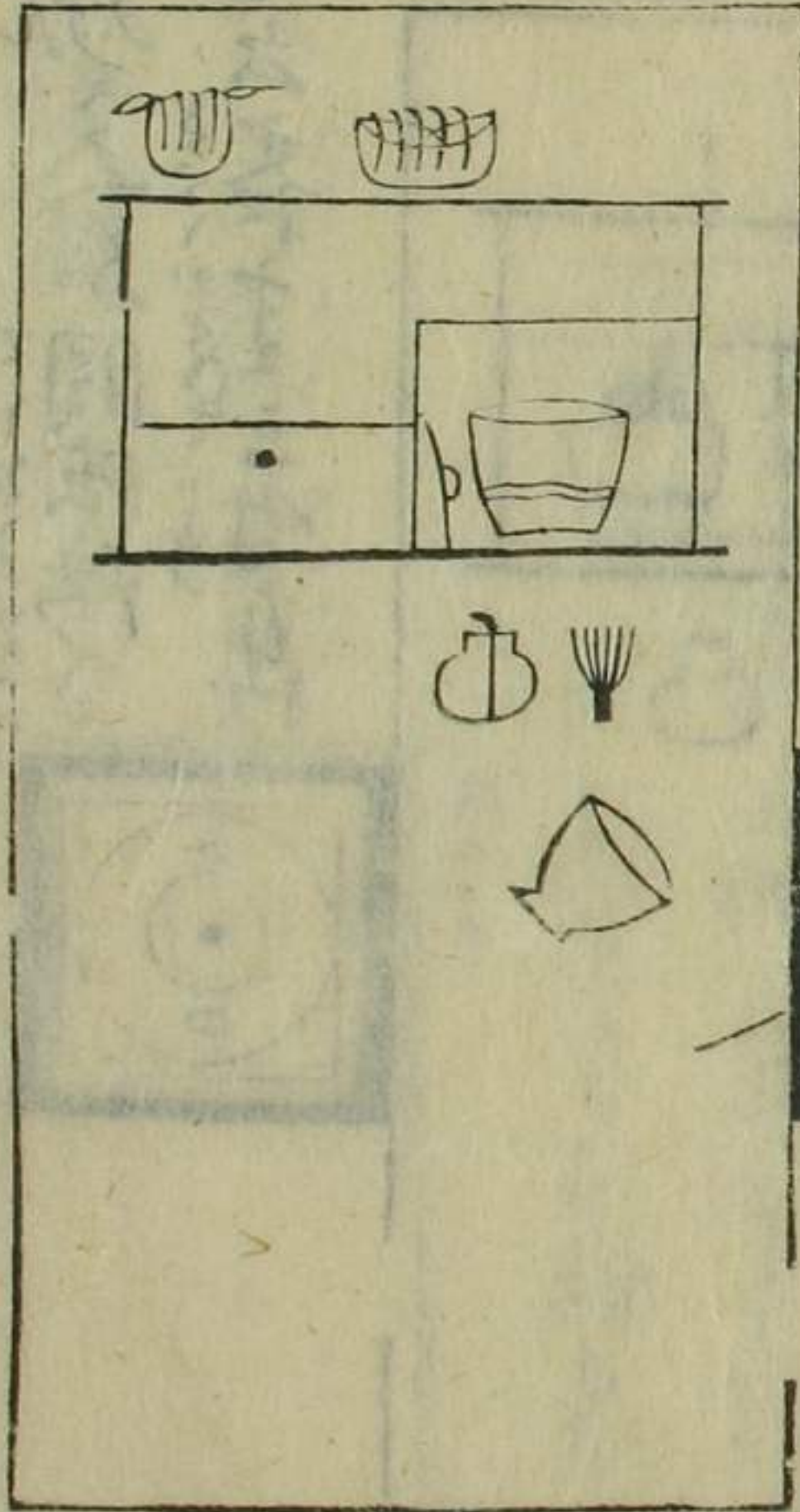


其三莊に帛巾をき茶碗と巾ひ茶入一付茶至九持
扱あひし茶碗九出ー九上とて押へ在る中此

上はよく手拭口拭く入何け茶碗丸出下、赤
 袋中丸備と内は赤（主）子入柄此其申ニ上蓋茶壺と
 取出一帛（し）茶此蓋茶壺湯ニ
 柄移入茶此蓋し柄柄蓋茶壺
 茶壺丸三川湯
 吹（中）茶巾
 茶壺（徳）又本
 此（く）水柄此上
 何け茶壺湯次
 二為上ほろ（と）足（中）茶巾丸茶碗引上湯と
 柄拭下ニ茶巾をさし如（水）柄（何）茶碗丸茶入

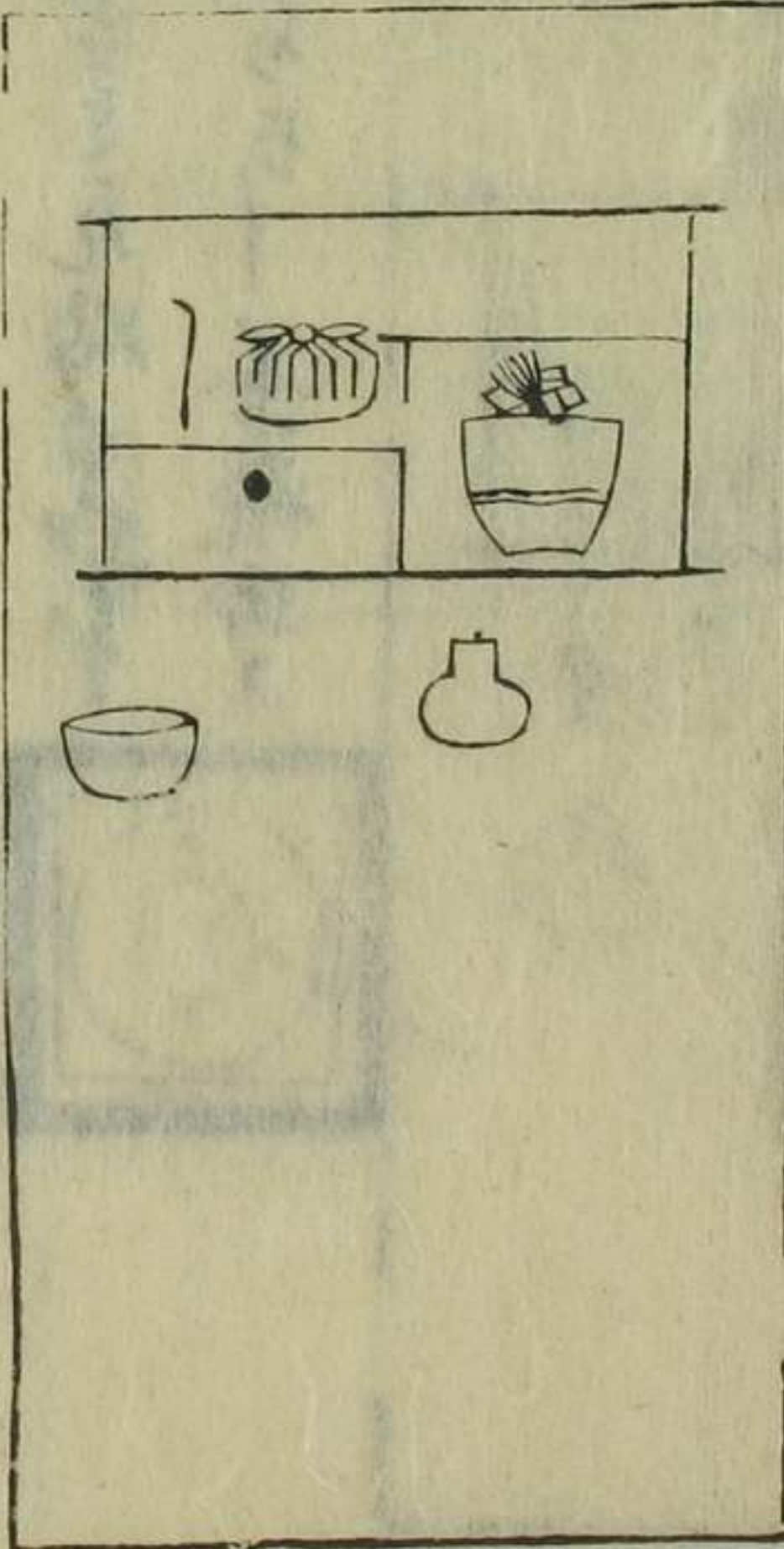


蓋取茶と入る能はずニ入茶碗茶碗（け）茶入切茶壺
 茶と柄（け）如本茶碗（け）（け）丸茶此蓋丸湯と能
 柄（し）入下ニ茶茶壺丸柄（中）本
 遣（し）帛（中）柄（中）茶碗出
 先（し）（中）と取
 茶此蓋茶（中）柄
 柄（中）上蓋茶
 し（上）茶（中）柄（中）
 柄（中）帛



取ると柄（し）茶（中）丸出（し）茶（中）茶壺（し）丸茶巾丸蓋（し）
 上（中）柄（中）の蓋丸（し）（し）丸水（柄）柄（中）丸（し）茶（中）柄（中）

茶碗解りてゆき茶碗解りてゆき
 湯と入茶碗とすき又湯と一物移入時あり
 湯と入茶碗とすき又湯と一物移入時あり
 湯と入茶碗とすき又湯と一物移入時あり
 湯と入茶碗とすき又湯と一物移入時あり

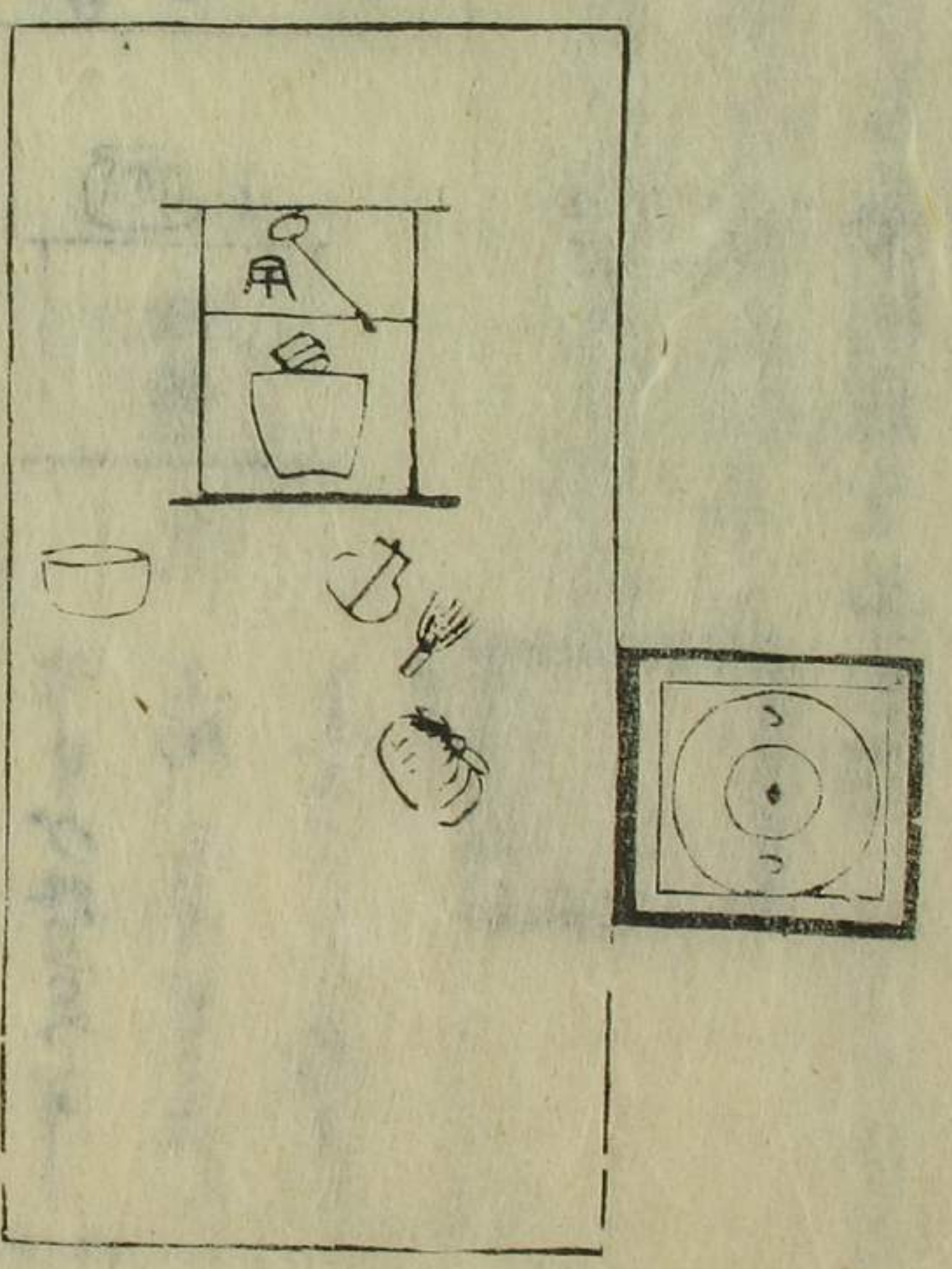


湯と入茶碗とすき又湯と一物移入時あり
 湯と入茶碗とすき又湯と一物移入時あり
 湯と入茶碗とすき又湯と一物移入時あり
 湯と入茶碗とすき又湯と一物移入時あり



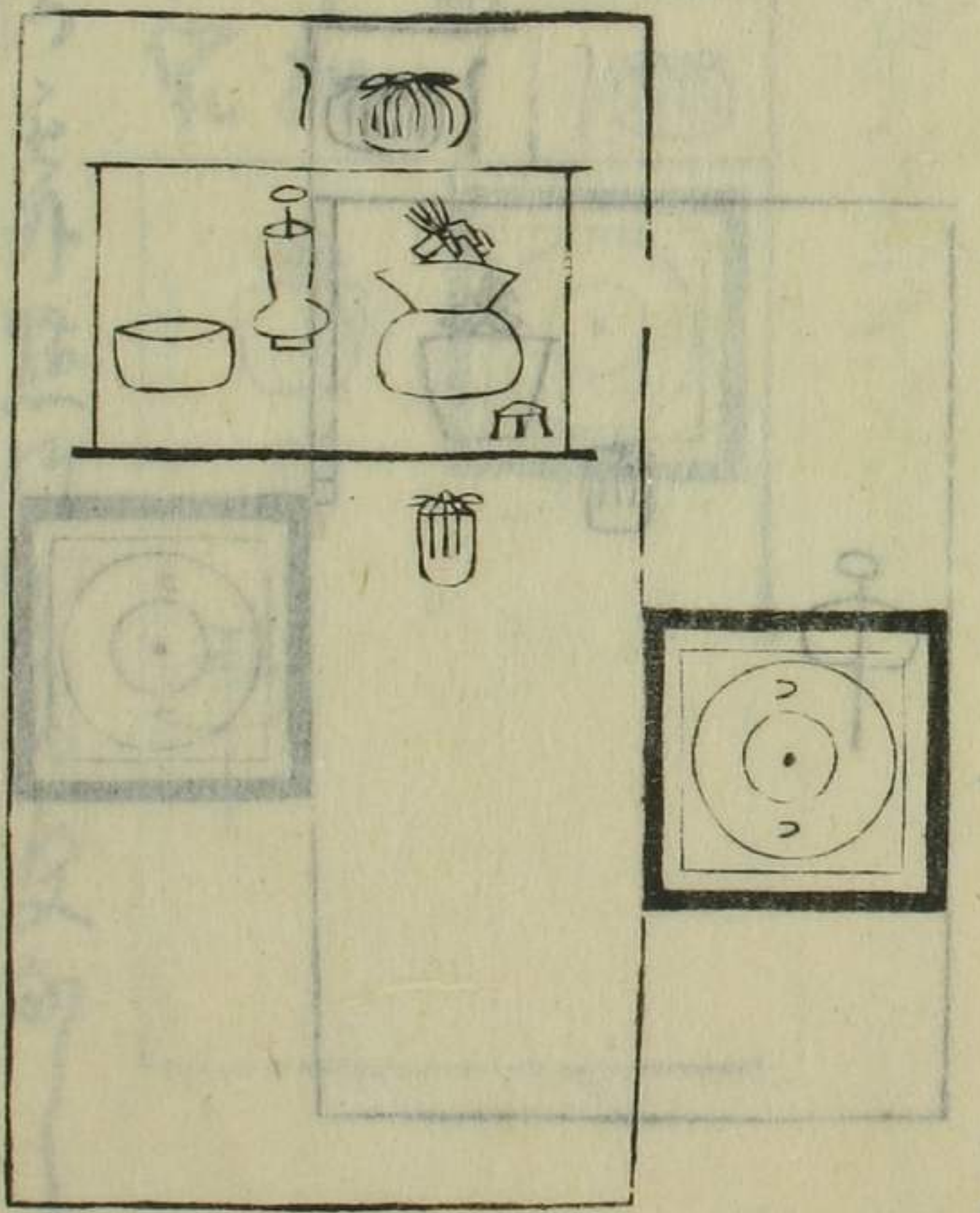
湯と入茶碗とすき又湯と一物移入時あり
 湯と入茶碗とすき又湯と一物移入時あり
 湯と入茶碗とすき又湯と一物移入時あり
 湯と入茶碗とすき又湯と一物移入時あり

口々より極福たか代先茶碗此書



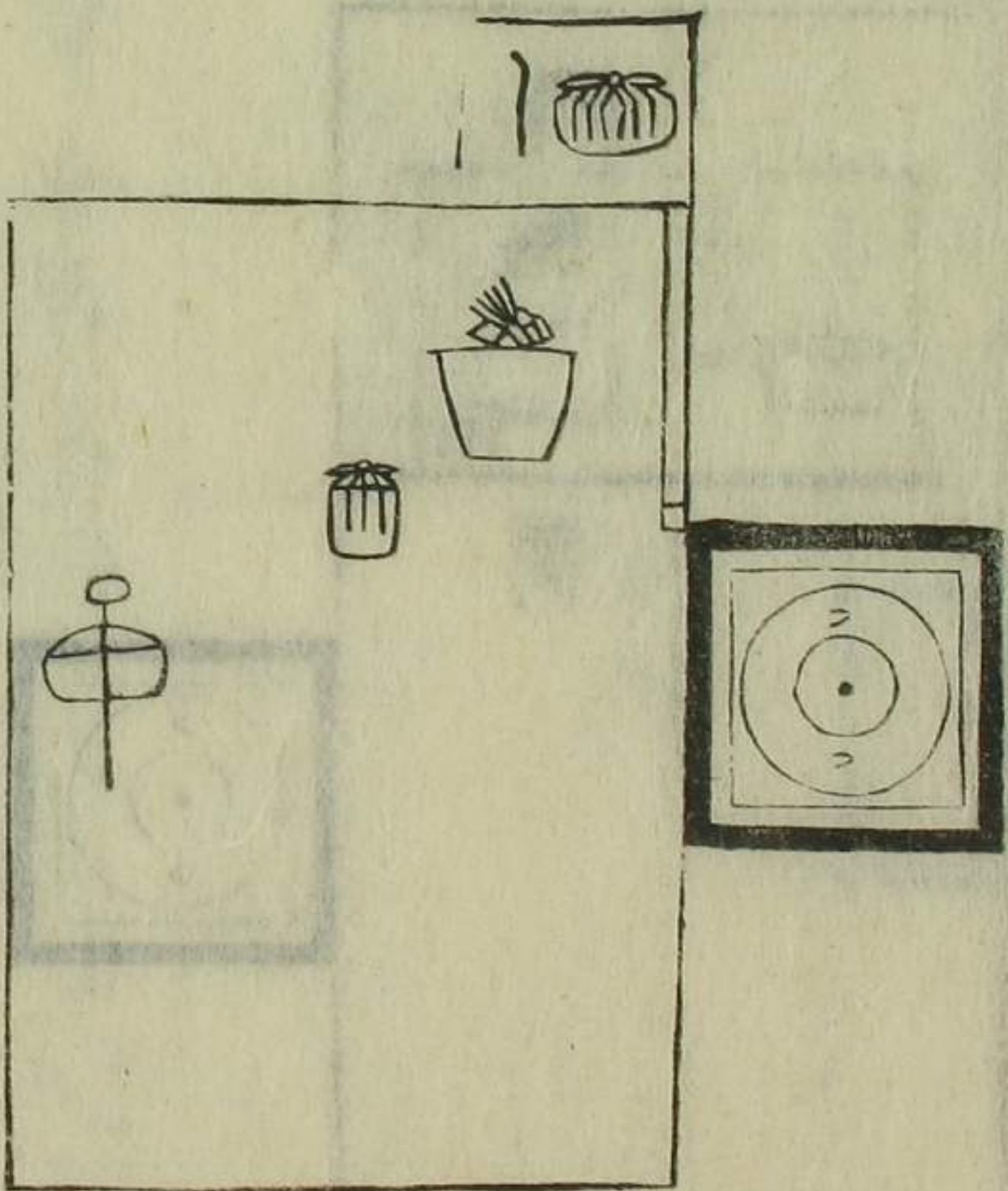
一 茶の庄に上れたるニ茶碗と茶碗の庄に上れたるは此の庄に
 此上ニ茶入を水盆とて持出候此心 此之替なり
 一 太極子ニ此庄に上れたるは此の庄に

茶碗の庄に上れたるは此の庄に



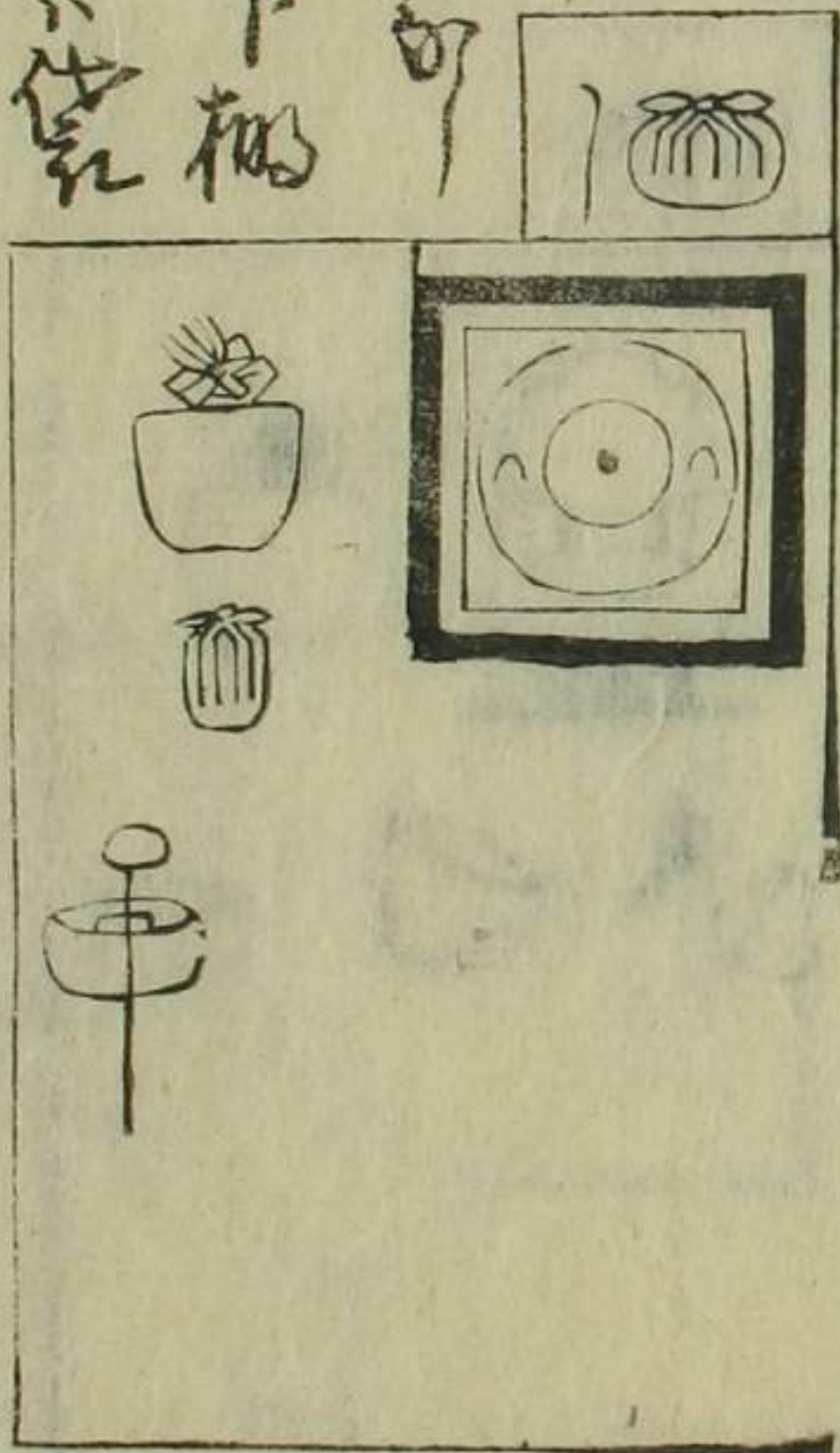
一 茶の庄に上れたるは此の庄に
 一 太極子ニ此庄に上れたるは此の庄に

三々々大徳茶碗代書



一 茶の庄のなまゝ茶碗代書ぬる様より上は柳上
を外點始の房をたてし一 右様子も何と

一 茶の庄茶碗代書



一 茶の庄茶碗代書
 茶碗代書下柳
 茶碗代書上柳
 上は茶の庄より外點始の房をたてし一
 右様子も何と
 角大茶の庄茶碗代書

玉梅より帛九斗一斗の形と九斗の中九斗は

玉梅の如き玉梅の如き玉梅

梅の如き玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅の如き玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅の如き玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅の如き玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅の如き玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅の如き玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅の如き玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅の如き玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅の如き玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅の如き玉梅の如き玉梅

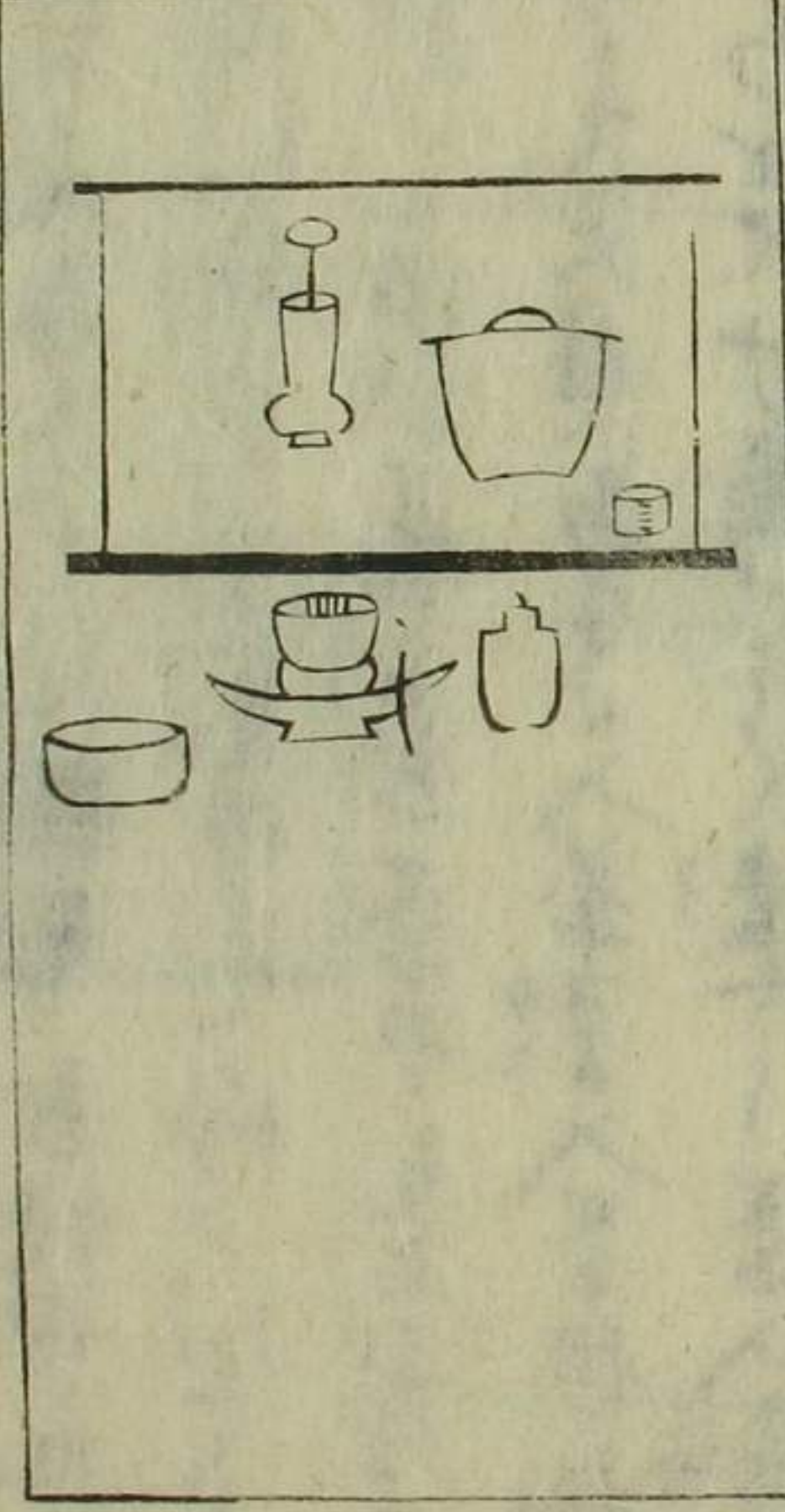
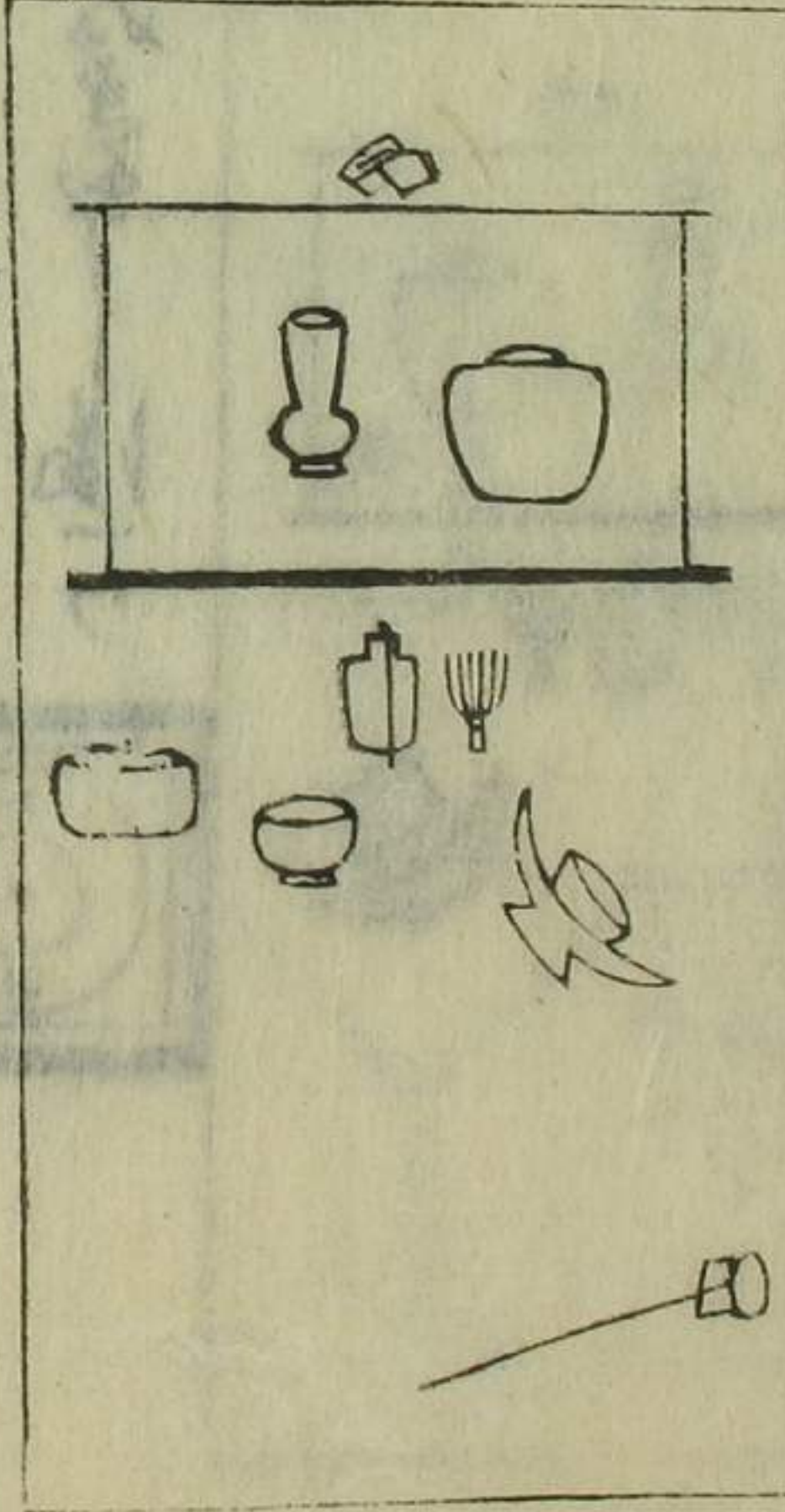
玉梅の如き玉梅の如き玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅の如き玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅の如き玉梅の如き玉梅

玉梅の如き玉梅の如き玉梅の如き玉梅

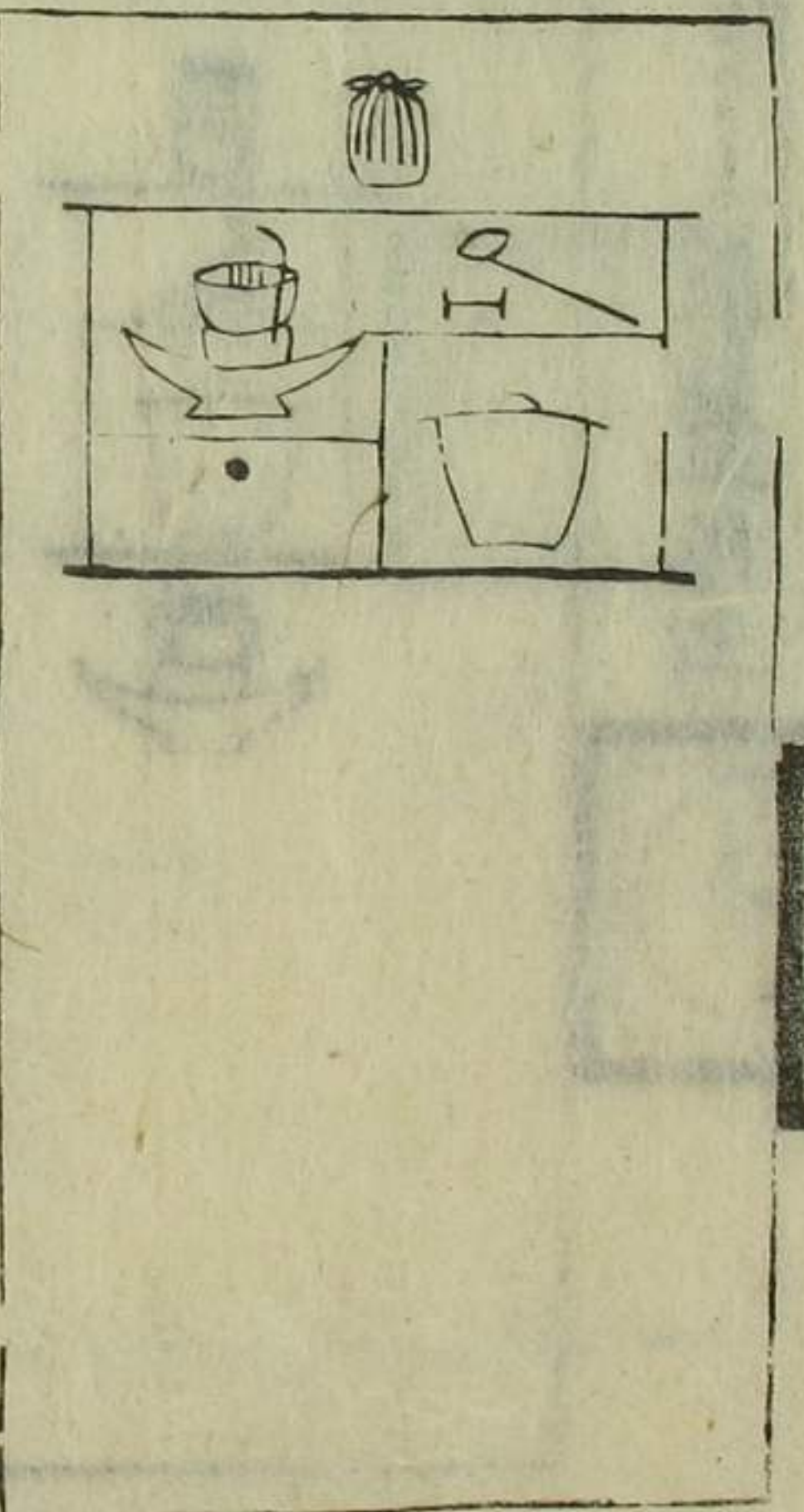
玉梅の如き玉梅の如き玉梅の如き玉梅



玉梅の如き玉梅の如き玉梅の如き玉梅

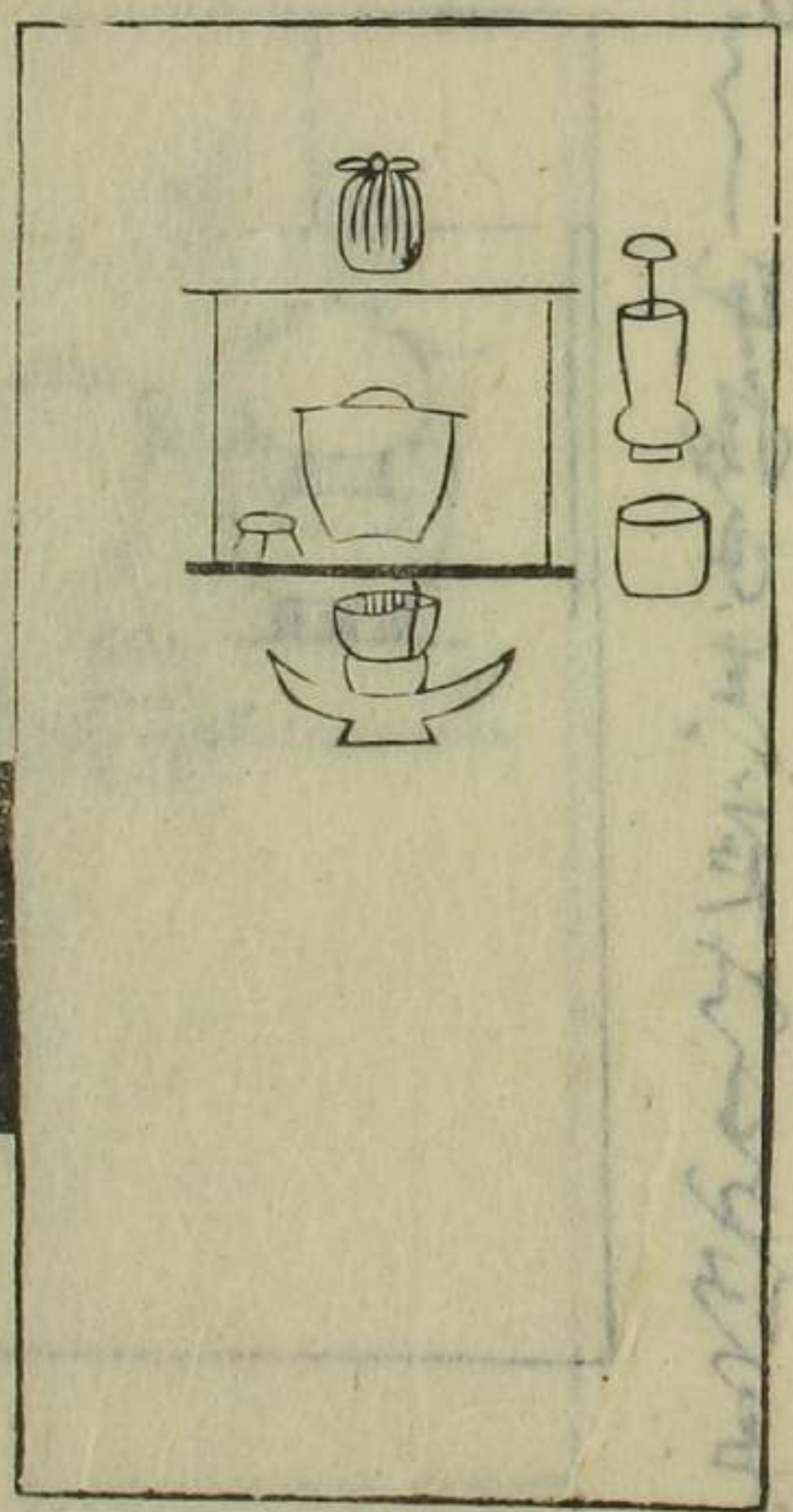
袋柳平子茶月此毒

一廿のが、さるさる、上は、た、さ、又、香、た、か、し、高、を、
 毒、入、は、る、點、一、換、あ、く、注、通、く、ち、痛、ひ、し、廿、の、あ、あ、り

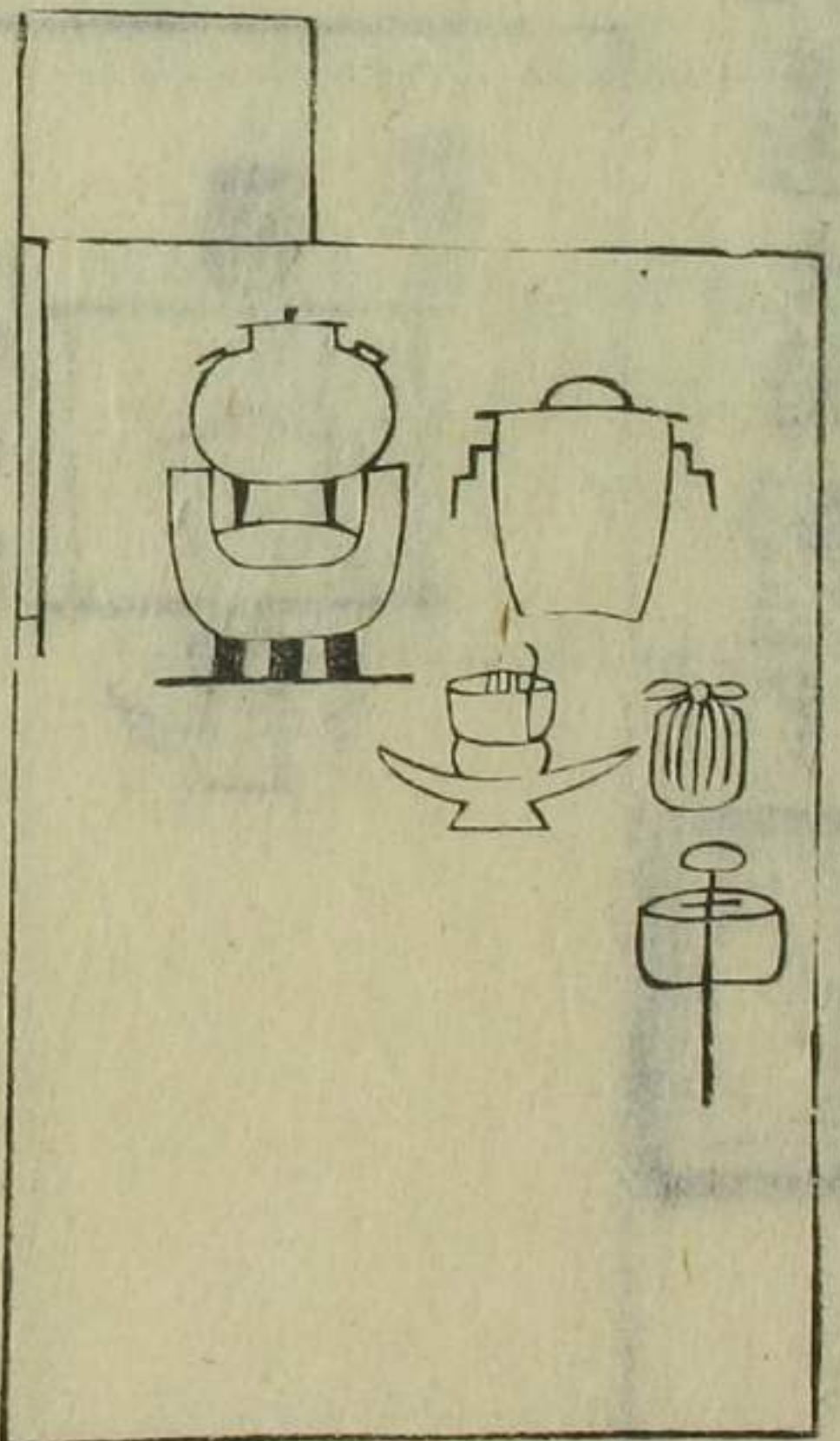


小体茶中子茶月此毒

一廿の、が、注、か、く、れ、其、毒、天、月、柳、三、
 毒、入、入、り、し、毒、も、は、る、二、を、注、
 毒、入、は、る、ち、平、印、を、ま、ま、水、を、盛、る、毒、入、り、を、又
 注、さ、し、し、り、し、點、換、あ、く、注、通、く、口、付

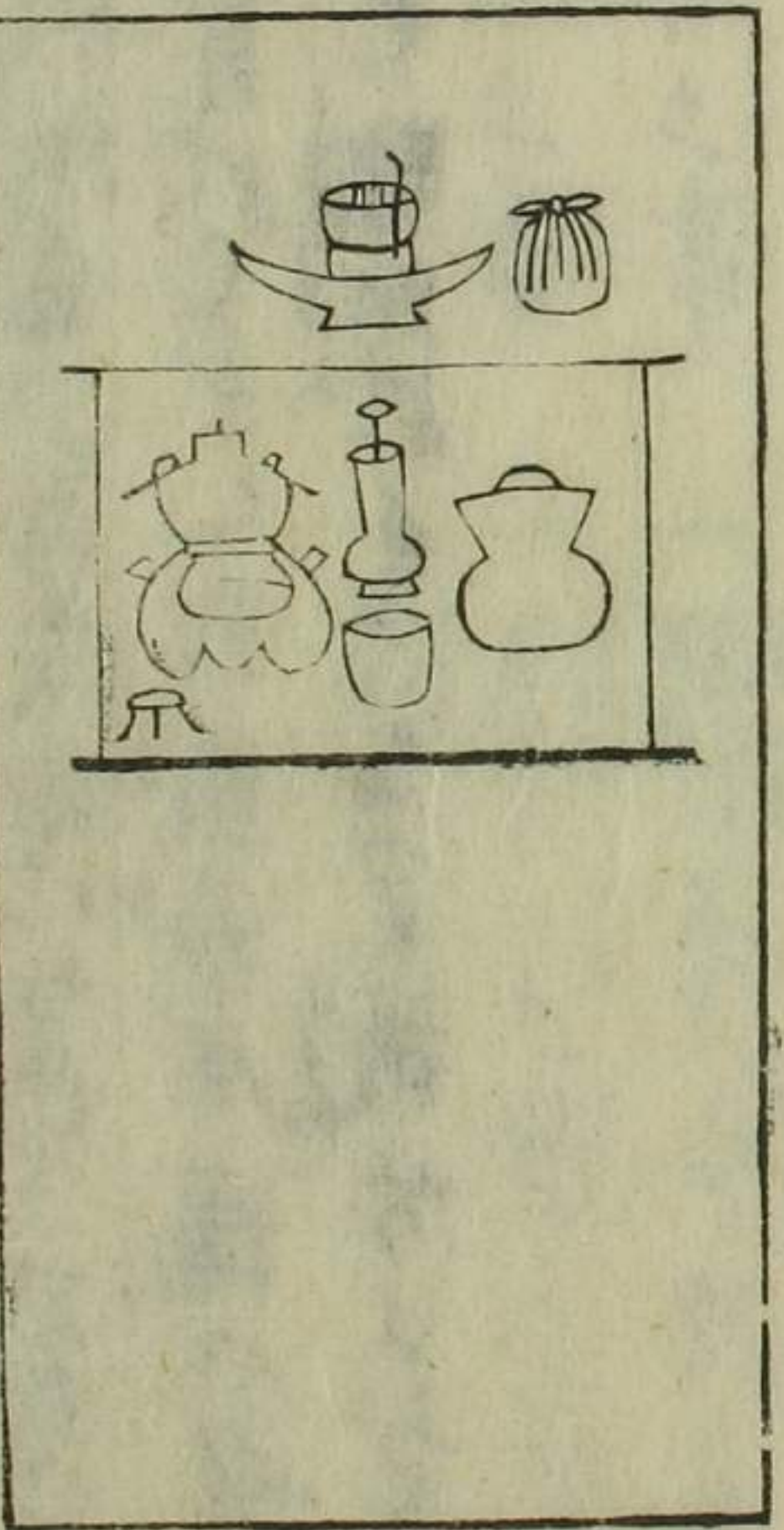


江村大徳の書



一 此の茶室は、中徳の書に記述あり、此の茶室は、
 藤原の河原に在り、此の茶室は、
 藤原の河原に在り、此の茶室は、

此の茶室の書



此の茶室の書、此の茶室は、
 藤原の河原に在り、此の茶室は、
 藤原の河原に在り、此の茶室は、
 藤原の河原に在り、此の茶室は、

一 此して其の天月八貴人高位此人又ハ名位相請
 此時又ハ親祖又知しこころを以て點あけあけ
 考ハヤリもあけ客もよもよふれす一とて之
 人可と行成付付ハ在受抄ハ一音ハ必定
 考りて其天月此をくを教書居圍ハ及親
 廣在受あしと敬知れそ一とて改付あけ入
 也

釣瓶之水取之事

一 専長緒之作成之事

一 縮茶入雁言答之事

一 油桶茶入雁言答之事

一 首茶碗之ゆあ之事

一 合子之物習之事

一 論儀之ゆあ之事

一 佛天月茶會釈之事

一 野燈盆點之習之事

一 右十八ヶ茶八其子之大事

一 ヲ畧ス御之方ハ板木へ抄子有家御

一 共之抄掬水取之事

一 専長紙之ゆあ之事

一 水滴茶入雁言答之事

一 弦付茶入會釈之事

一 茶釜入之習之事

一 室茶碗之習之事

一 右良點三脛之習之事

一 佛天月茶碗三眼點之習

一 野燈盆點之習之事

一 右十八ヶ茶八其子之大事

一 ヲ畧ス御之方ハ板木へ抄子有家御

離多しと云ふおのち新くおのちの二口宗人の中をり
りももり上れたる道々る時たり之又安れ方方同
米り交りてお喜ハ能くの人各如くお喜中
れ悉く又ハ常にお合も白き花ハ遠く道一
り之又人二箇茶道道々るさ人各之を
比お喜れを付しハ常道長よりひきりりお喜
貴人各とも胸を寄時ハ付しハお合之常々
能お喜れする人各ともハたひきりりハ
りはる道々るお喜れ一とすりハ
指板次中其事

一 十乃茶揉す了り茶揉ハる香して悉く故二あり
お燃下り古乃茶入能何ひ能下り茶入ハ月為
茶入至茶巾茶慌陽しあるも外道具是れ出之
悉香をか揉ニ揉至也
一 古乃炭從合て至之炭丸を製おけ割炭を修輪
細炭丸を自炭丸失念心入り
一 十乃路地をりする本葉節とも拾ひ置り
一 十乃の紹古の道々るすりハ内方りる
入茶揉るる揉至世時ハ羽常香合とハ揉
一 月時後中ニ茶は遠至一り月時炭斗ト一ハ
古乃名を起れ入至土鍋一灰入至脇ハ

悦巾^{しん}爰^あ紙^し揚^{やう}子^し羽^う帝^{てい}元^{げん}海^{かい}到^{たう}日^{じつ}時^{とき}斤^{しん}尺^{せき}水^{すい}七^{しち}分^{ぶん}の^の程^{ほど}

全^{ぜん}蓋^{がい}蓋^{がい}茶^{ちや}悦^{えつ}九^く係^{けい}也^や

一^一 同^{どう}の^の製^{せい}お^お子^し訓^{くん}炭^{たん}輪^{りん}能^{ねい}大^{だい}た^た一^一大^{だい}煉^{れん}全^{ぜん}上^{じやう}は^は

一^一 入^いり^りの^の後^ご九^く出^{しゅつ}又^{また}時^{とき}と^とく^く三^{さん}三^{さん}如^{ごと}能^{ねい}也^や日^{じつ}時^{とき}九^く

一^一 扱^扱す^す一^一の^の後^ご九^く葉^{えつ}と^との^の葉^{えつ}お^おと^とこ^ここ^こに^には^は付^つく^く

一^一 と^と能^{ねい}何^{なに}の^の先^{せん}揚^{やう}子^しと^とあ^ある^るま^ま一^一立^たて^て居^ゐる^る毎^{まい}お^お

一^一 入^いり^りの^の後^ご九^く出^{しゅつ}又^{また}中^{ちゆう}に^には^は功^{こう}有^あり^りと^と九^く葉^{えつ}と^と

扱^扱す^す一^一

一^一 九^くの^の如^{ごと}く^く九^く葉^{えつ}九^く中^{ちゆう}に^には^は九^く葉^{えつ}と^と立^たて^て居^ゐる^るま^ま

一^一 九^くの^の上^{じやう}の^の葉^{えつ}と^と入^いり^りの^の後^ご九^く出^{しゅつ}又^{また}中^{ちゆう}に^には^は功^{こう}有^あり^り

一^一 九^くの^の葉^{えつ}と^と入^いり^りの^の後^ご九^く出^{しゅつ}又^{また}中^{ちゆう}に^には^は功^{こう}有^あり^り

一^一 九^くの^の葉^{えつ}と^と入^いり^りの^の後^ご九^く出^{しゅつ}又^{また}中^{ちゆう}に^には^は功^{こう}有^あり^り

一^一 九^くの^の葉^{えつ}と^と入^いり^りの^の後^ご九^く出^{しゅつ}又^{また}中^{ちゆう}に^には^は功^{こう}有^あり^り

一^一 九^くの^の葉^{えつ}と^と入^いり^りの^の後^ご九^く出^{しゅつ}又^{また}中^{ちゆう}に^には^は功^{こう}有^あり^り

一^一 九^くの^の葉^{えつ}と^と入^いり^りの^の後^ご九^く出^{しゅつ}又^{また}中^{ちゆう}に^には^は功^{こう}有^あり^り

一^一 九^くの^の葉^{えつ}と^と入^いり^りの^の後^ご九^く出^{しゅつ}又^{また}中^{ちゆう}に^には^は功^{こう}有^あり^り

一^一 九^くの^の葉^{えつ}と^と入^いり^りの^の後^ご九^く出^{しゅつ}又^{また}中^{ちゆう}に^には^は功^{こう}有^あり^り

一^一 九^くの^の葉^{えつ}と^と入^いり^りの^の後^ご九^く出^{しゅつ}又^{また}中^{ちゆう}に^には^は功^{こう}有^あり^り

一^一 九^くの^の葉^{えつ}と^と入^いり^りの^の後^ご九^く出^{しゅつ}又^{また}中^{ちゆう}に^には^は功^{こう}有^あり^り

一^一 九^くの^の葉^{えつ}と^と入^いり^りの^の後^ご九^く出^{しゅつ}又^{また}中^{ちゆう}に^には^は功^{こう}有^あり^り

一^一 九^くの^の葉^{えつ}と^と入^いり^りの^の後^ご九^く出^{しゅつ}又^{また}中^{ちゆう}に^には^は功^{こう}有^あり^り

一^一 九^くの^の葉^{えつ}と^と入^いり^りの^の後^ご九^く出^{しゅつ}又^{また}中^{ちゆう}に^には^は功^{こう}有^あり^り

かしら入箱明けて四入之を隠し入と茶運口
 して之の箱蓋を鍋へ入きく付て羽布をひき
 茶及口は箱の中へ入れておくとす毎時此おかしら
 又箱の中へ吊掛しきく交紙懐へ入炭入抽出土
 銀へ入跡戸を多く炭するなり

斤口凡は椅子一立つる口付
 炭付包椅子一立極から科理椅子次第二立と云

熱して茶具炭此道具掛極此交

床 ほね 綿籠 花籠 花切 巾
花生 序板

炭灰 土おの 刻す 輪す 白炭 香箱 鑽 土鍋 灰抹

斤口 蓋置 金葺 交紙 土田 土田 土田

茶具 水指 茶碗 茶釜 茶杓 水盈 蓋置 極酌

幌巾 勝手羽布

家具 四鉢 湯盆 水次 湯アキ

たんこ盆 たんこ入 大入 灰母 き掛籠 芝八掛り付要

右の茶書付て椅子は張付て坐時美忘外、世心
 坐時八息、茶書付てあはる之故茶書す由
 たりあり

通此以尋此毒

一 火燒口とさき戸と并脛と指あるを二絶して
 上二部之下下やき又呼吸此毒入指の上此お
 毒出さるるに如く候指者多し食体持ある之毒して
 自脱通するも何れ又小指まりのやうに通はする交
 ても何れも毒より下へ酒とあま酒九て手拍聖
 其乃一亭主と食ス一酒済て湯盪湯次一入
 茶持あ毒付ま九て飲く七口一服を九湯淋之候
 上て戸立りけある口借進付茶葉多持出毒一
 指戸といひとたて毒之毒ハ名候とんて立する也
 一 秘記ハ毒一と候何れ又此一強秘記をゆりか

通

一 茶此湯抄記此毒ハ酒ひて之又ハ給指身木一汁二
 茶此抄記此毒ハ膳酒ひて付まり 毒ハ年血物
 一と何れも也膳此口隠りやと付る毒と何れも
 一 酒引て此時ハ毒と何れも下する毒中一也
 一 数考此毒ハ候て内外氏ニ黒ゆる也
 一 汁ハ時此和九合酒力也大瓶毒房一たき分付ます
 一 人多し去料理方此人の口たき分此毒ハ食く付
 一 たる時概此口とさき地と銀造し一乞理ニ叶り
 一 かまどと遺ニひげれ毒ハ一遺毒と親
 一 ハウうのぎ遺ニめ此毒のありハ一遺毒と親

一 明よと遠て海に此熟茶を之に玉必食膳

莊此事

一 表外へおると苑生此水と吸道具も苑生高枝
丸茶をさくく一 相掛物を指炭として湯を
かく八斤に二匁を指ある茶へ全院に紙巾い
茶針お水指莊茶入しひくし莊おごうの喚鐘
の掛あふくを鐵く折一 折柄寸法此茶も茶入
煎をおれく茶通口を舌て入と字也院中御
さく羽の帯くしをきて戸と開ける也

一 三北口江と云おる

一 茶院の湯水盈指生莊川茶入丸お丸入

第指お大月此口を手に口へ入る内茶も立炭
と下らする口はるぬ炭入指生炭するおれ炭の
と同おの湯炭此を板口指有炭仕茶と表の茶
内指煎也表遠てと有対はて外掛汁へ先出
何れ今自のおおと入る仕候はるく他人此
法也大名此明くさる茶は從付するはく
銀此間此事

一 おれどくしおれ立た極る茶此ゆく大取ハ
炭此層一通して茶茶煎く甚茶おのし出る茶
あるく又お人信く後片ら茶菓子おる茶
又炭茶煎煎お又何しを尾り信一

まうびおりのるすう物あつても寺社何めて徳下上
一 御座此る次は御目通 臺子莊主茶碗として
五河野しし能時よく三茶通と一茶を煎るせう物
立火必部本立主と乞明あつて

一 膳物掛一膳けして御座此るの座脱一主す法
一 御座此る御交する上青竹こころはくとして主の中
一 御座此るこころあつて

一 御座此る後主として又御げこころあつて
一 數多金とぬるたけさるよ小姓は播和とあ指大
焼口此る中りぬる主として

一 御座此る水餅ハ高可あつて
一 御座此る方此儀共あつて登一主してふ時物又折右
おろハ醫師と使合してかしく不遺物也

一 家兼有御茶を下時此事
一 御座此るあつてさうり上教とら通明此者とくさ
まて連ら出らぬ也何所數あつて入とらぬ

一 御座此るを進付つて戻らぬ也併と香合は
一 入合を進付料ある通ハ小坊主が小僧へ食
一 併て茶菓子ある何し中立とす茶は茶此通

一 莊鏡の喚鐘と打之何し入卜物らぬとぬるもあ
一 ぬあま申一口は時とくまぬとぬるもあ
一 茶入らぬ一徳子ら入らぬ茶入らぬ徳子茶入らぬ

出るもちまぐら際戸上立りしつるも又鏡へ入る

しつるもつるも信一

貴人進言答此事

- 一 高位は客の蓋を室して居る此時を以て
- 一 茶を入懐に親交の高位より親下等より親月
- 一 尊に知也此心八上と下ハ及此心五夫の事也

水打極此事

- 一 中立此の水より立水打時より念色湯此の時より
- 一 水打時、薄茶初よりある時より
- 一 寒天此路地はもと此水打ハ壁ニ打ス凡極の時

水打極ハ壁へ打かるる事

寒天此の時より親教考れ時ハ七の事此の時より

まて石版する由掃除急に入水ハ水打此の時

此水打之時ハ水入一

此上此蓋ハ水打の時

此水打之時ハ水入一

水鉢扱抄此極之事

一 明子此お焼ぬ此子水鉢此母ハひく此燈此と一
籠遊ておくま

一 桶此時ハうむけておく 石此時ハ横して
寒く天此時ハあうハ水ハ行路湯を
此上ハおお母此石をさア一切を
くまら有是ハを天此時ハ子水此湯
中ハ入をおハするま

石燈籠之事

一 石ハうけと隣者と石を 幸此土天武以
下四甲 燈共五角又ハ七角
一 月色ハ七角九角多入おハ子細ハ強月ハ

きおあ

路地りんごと此事

一 金不ハ右ハうけ此おれと是ハ角ハけく
南代ハ御子ハ縁ニおくま
御子ハとと敷をうを之此道此他ハ事ハ石
石此御ニ伏せ上ハ御灯を垂れ又ハ然道此
西ハまハ又字をハ上ニ御灯垂れ是尾人
すまハ九板此事

一 敷寄御隣子とすまをハの 振舞五中
此此母すま是九てい全作輪を垂れ又ハ
すま是九と云すま是九中由答ハ子細ハ外ハ

刀脇指此ある由一依て氣つふらりて可く程あり
船あり大北有るハ凡炉先之方之た色の障子

不時此客之毒

一 一付此あるより色ハ掃除カ一先入為茶點
も間ニ掃除せり可くは他人の道ハ水鉢
此何れと針掃除さゆてと善一

一 一付此あるニ秘苑此庭具ニ茶室新友とあま
一月ある等と色一付太極合たる庭具ありハ掃除
入水指と陸め切とにいへくしゆり一掃出つ
客との苗とありハ炭する茶室をぬきとす
園中表凡燈極此毒

一 一後利此神ハ九月朔カハ三月晦カ

一 凡炉之神ハ正月朔カハ八月晦カ

園中表縁之事

一 本此縁ハ正月朔カハ二月晦カ
極月可く

廿三日此毒

一 庭ニ庭具一種此時ハ棚ニ三種庭ニ三種此時ハ松ニ種
色了は庭具此時ハ不入庭此時如也口傳

他人孝主振此毒

一 庭ノ中入る客ハ庭物少と忘つてありまは
花ざらりて茶此時ハ庭ハ庭

菓子綴刺此事

一 綴此方一を掛をスニ給飯修り夕飯後山際此方
可ぬとこのまを素ハ遊付炭として又茶新子ハ所
お 綴刺此方ハ所

刀脇指口傳之事

一 数寄合ハ甚ニ多ク此方一つきハ所度及ハ所
此方ハ又ハ所ハ此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク
此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク
と云付九方ハ所也

續口切之事

一 口切を傳てすハ所ハ此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク

全此蓋つまむ此事

一 此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク
此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク
一 此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク
此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク

片口扱此事

一 此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク
此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク

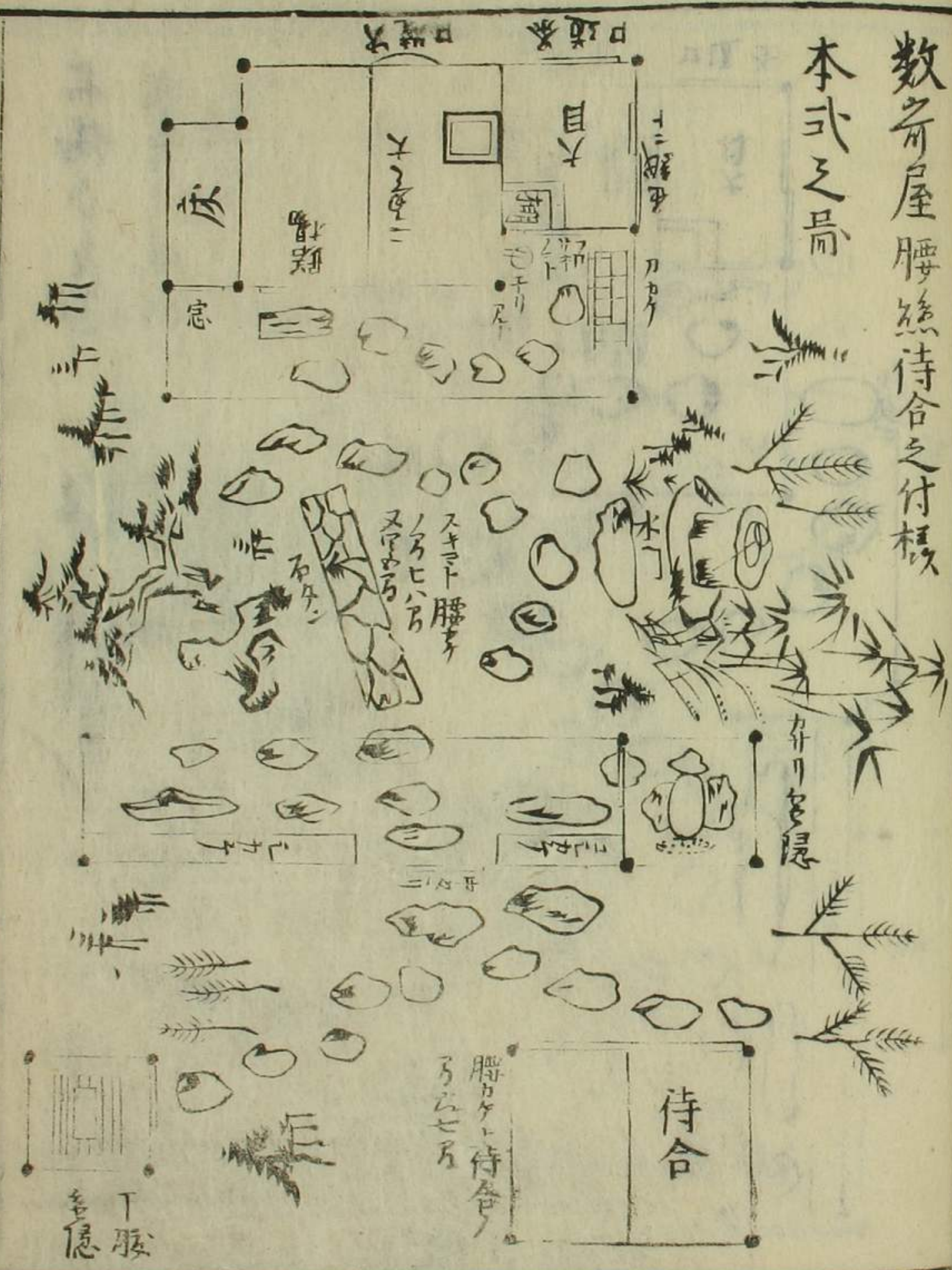
数寄合ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク

一 何と云ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク
此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク
一 此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク
此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク此方ハ甚ニ多ク

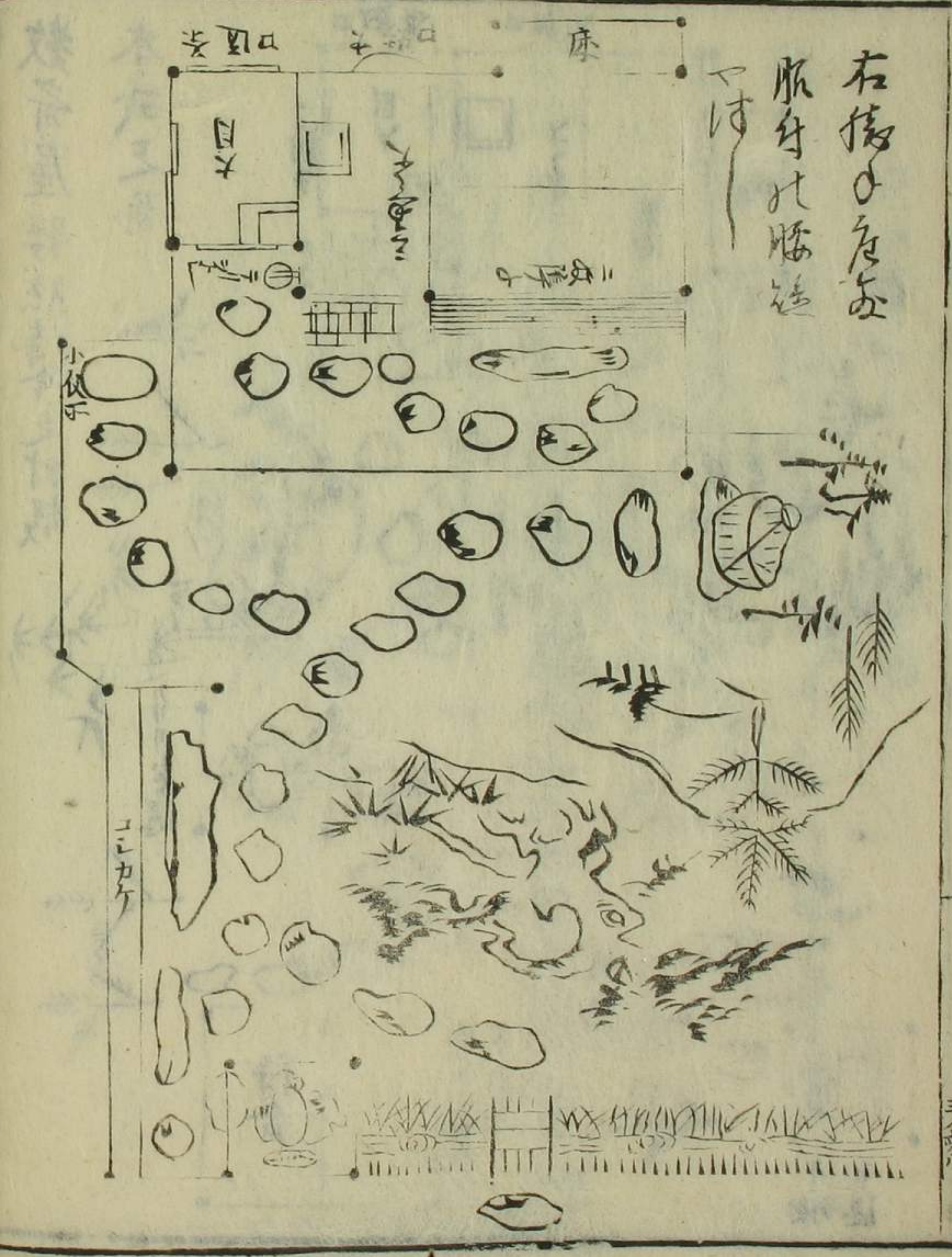
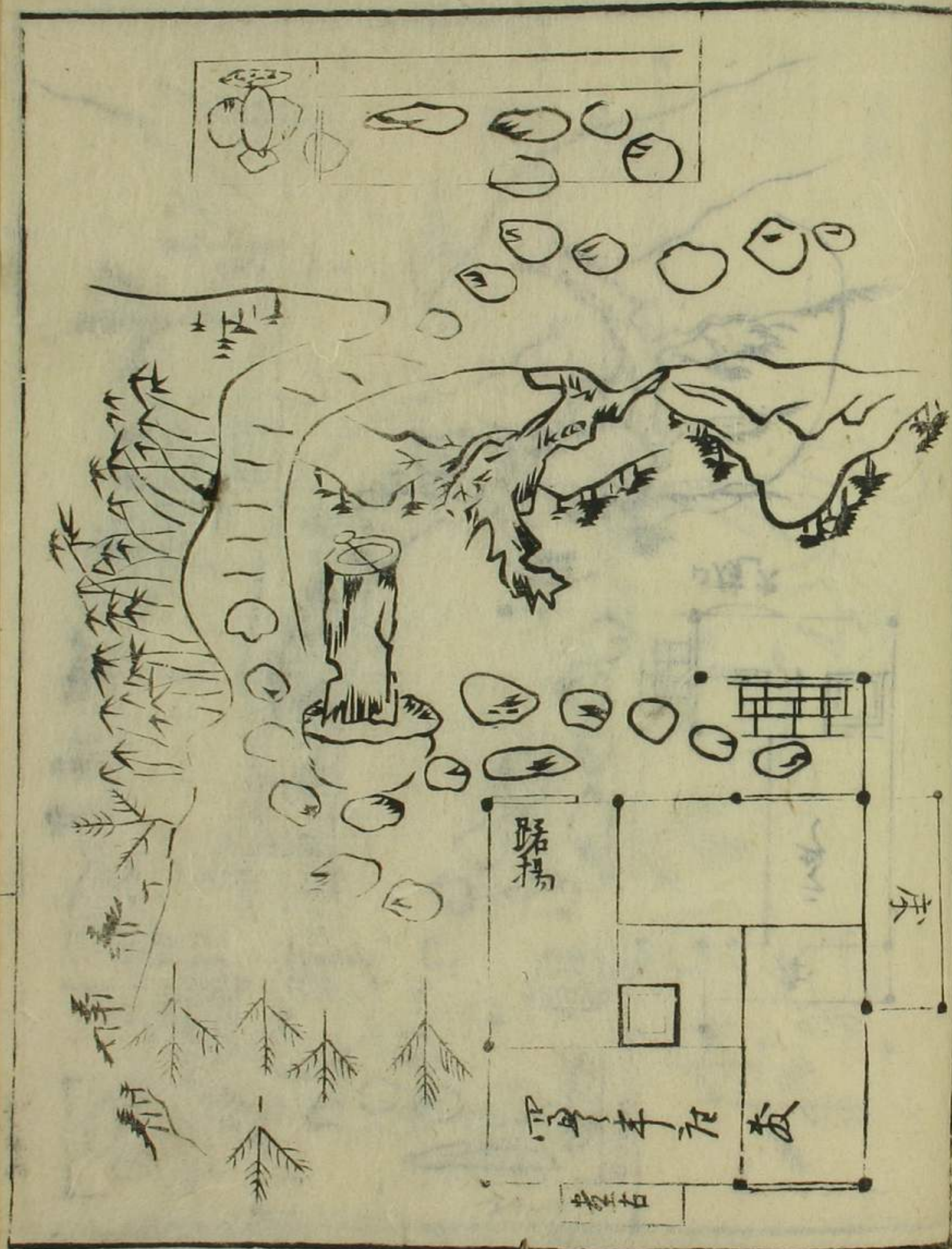
洛比うらぐ物此書

- 一 杉母のき洛比ニ事葉ありのけし事葉あり石
- 一 辰比きハ八寸のけてあつー
- 一 水鉢此向いへこくハ卑く極うり善一
- 一 石焼籠此垂下ロ辰比ハ通ハ通ニ垂籠
- 一 掃子通ハあ付く此方

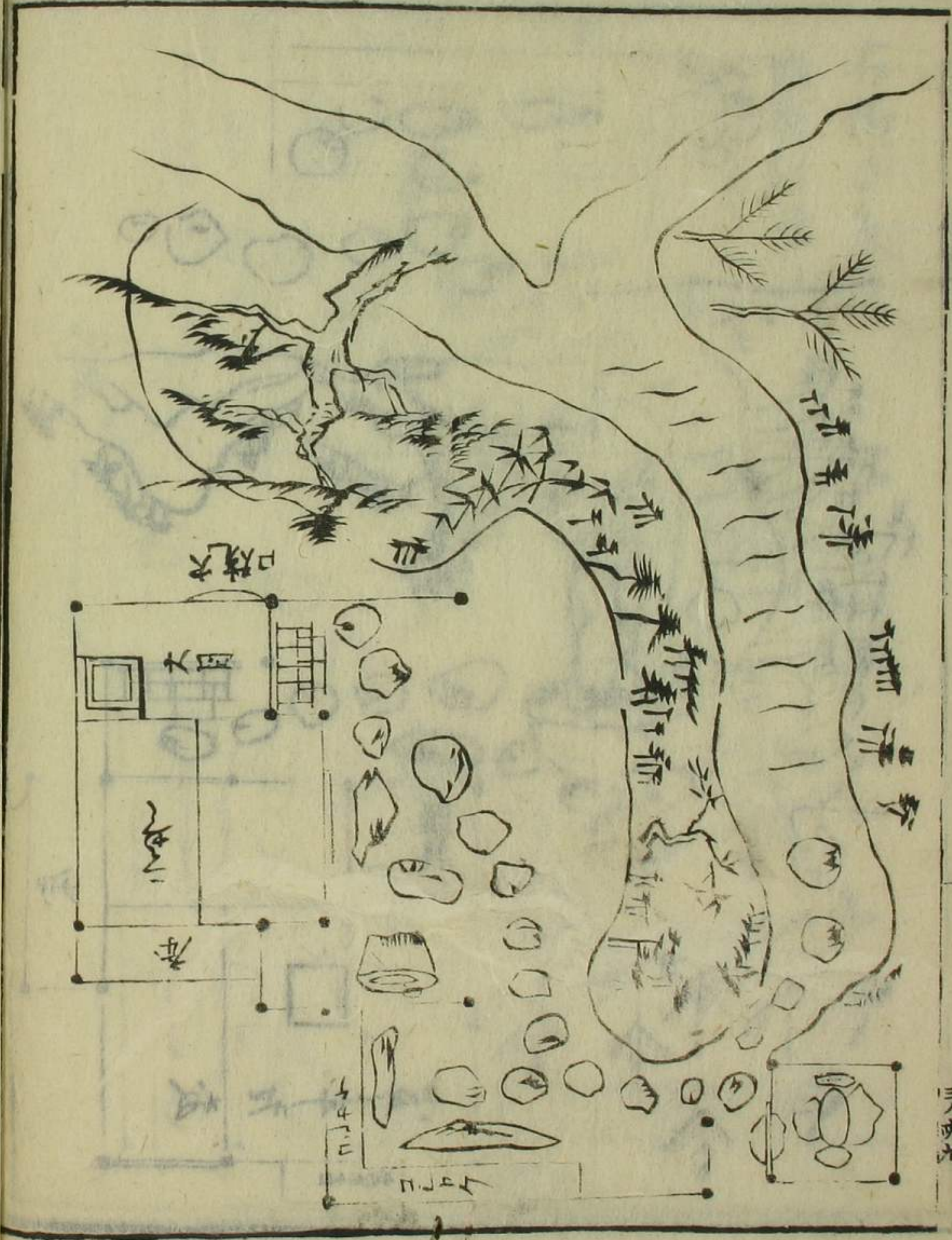
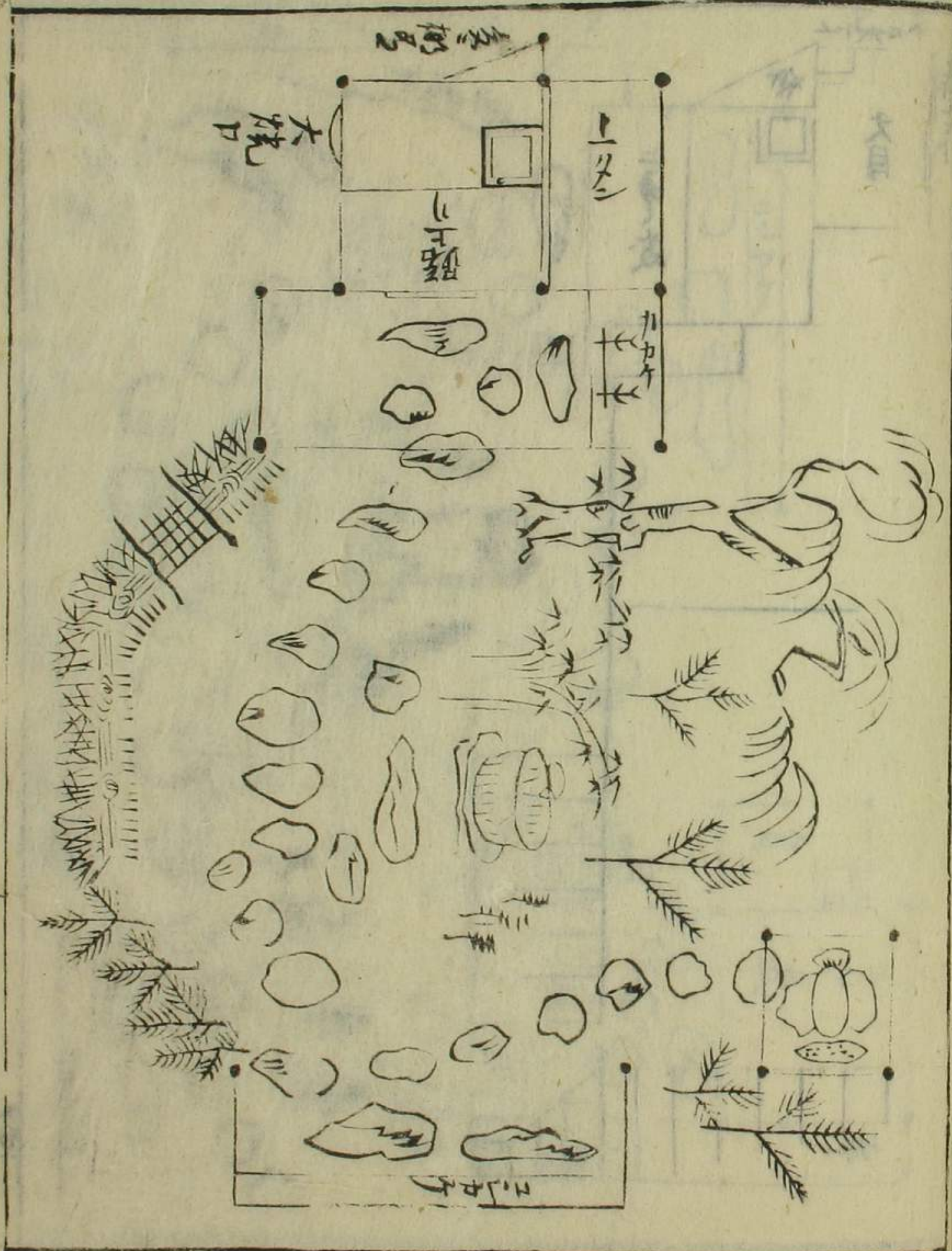
数寄屋腰懸待合之付様
本式之畵



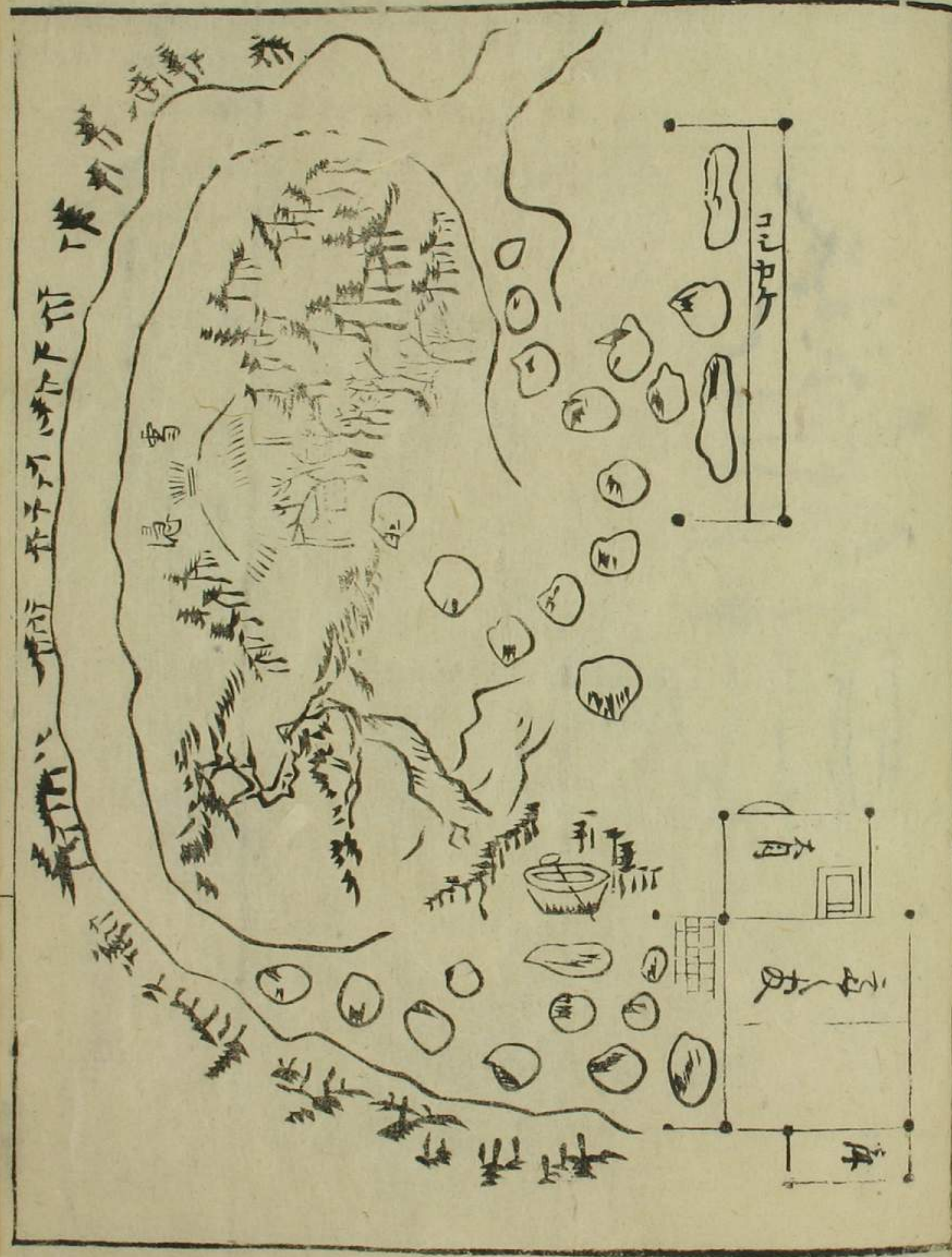
Vertical handwritten text on the right page, likely a continuation of the text on the left page, describing the garden and room details.



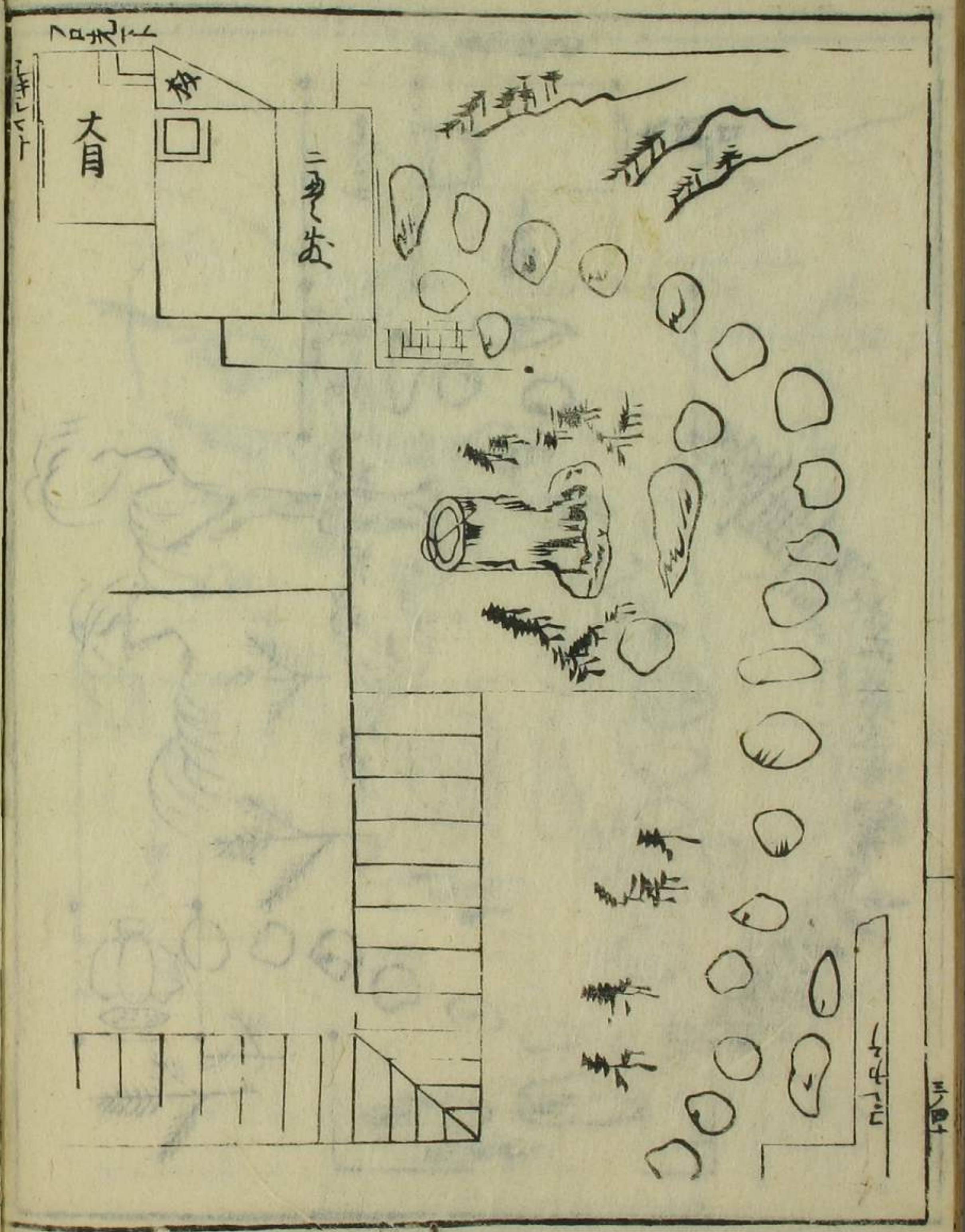
右揚子居室
 服身此階造
 丁付

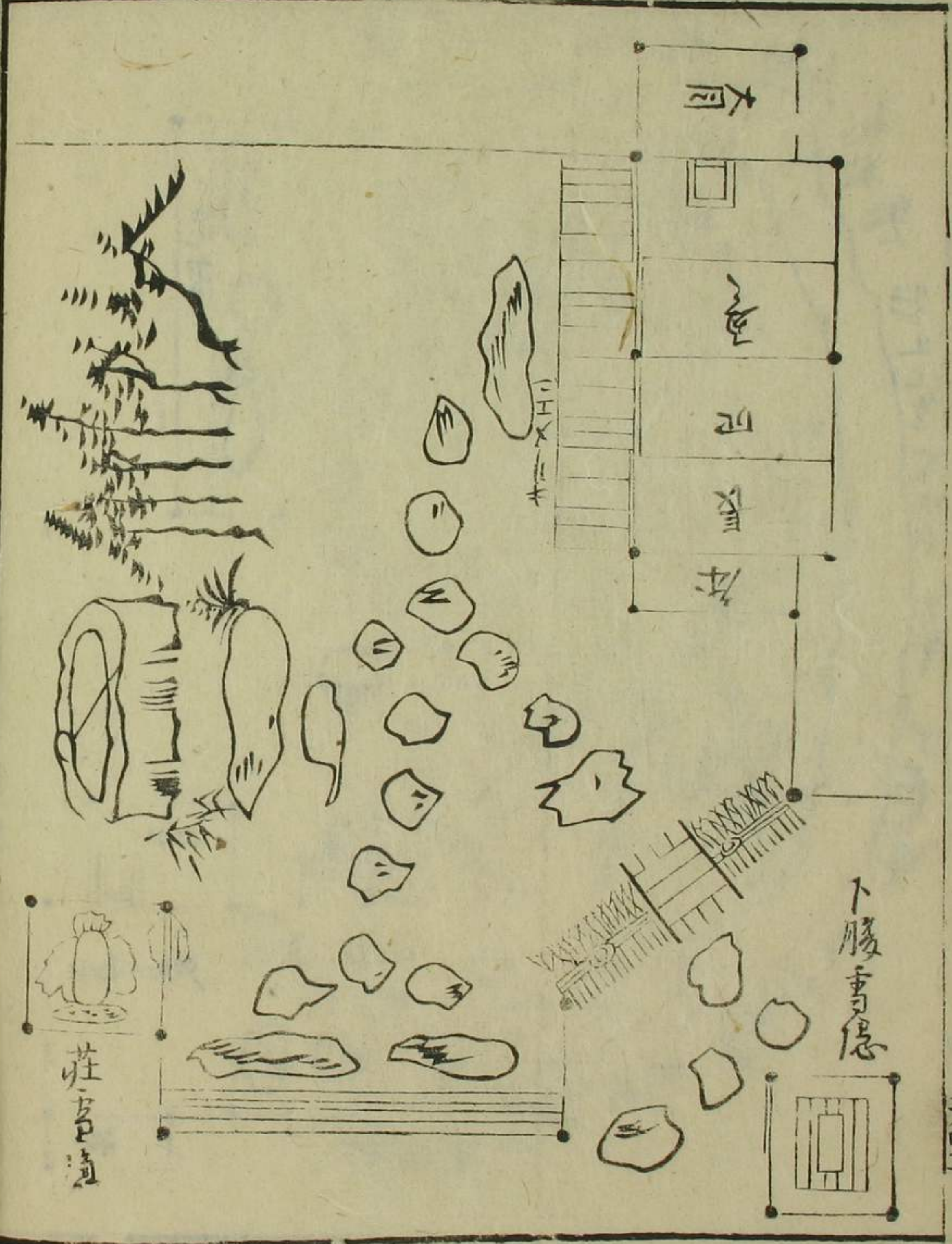
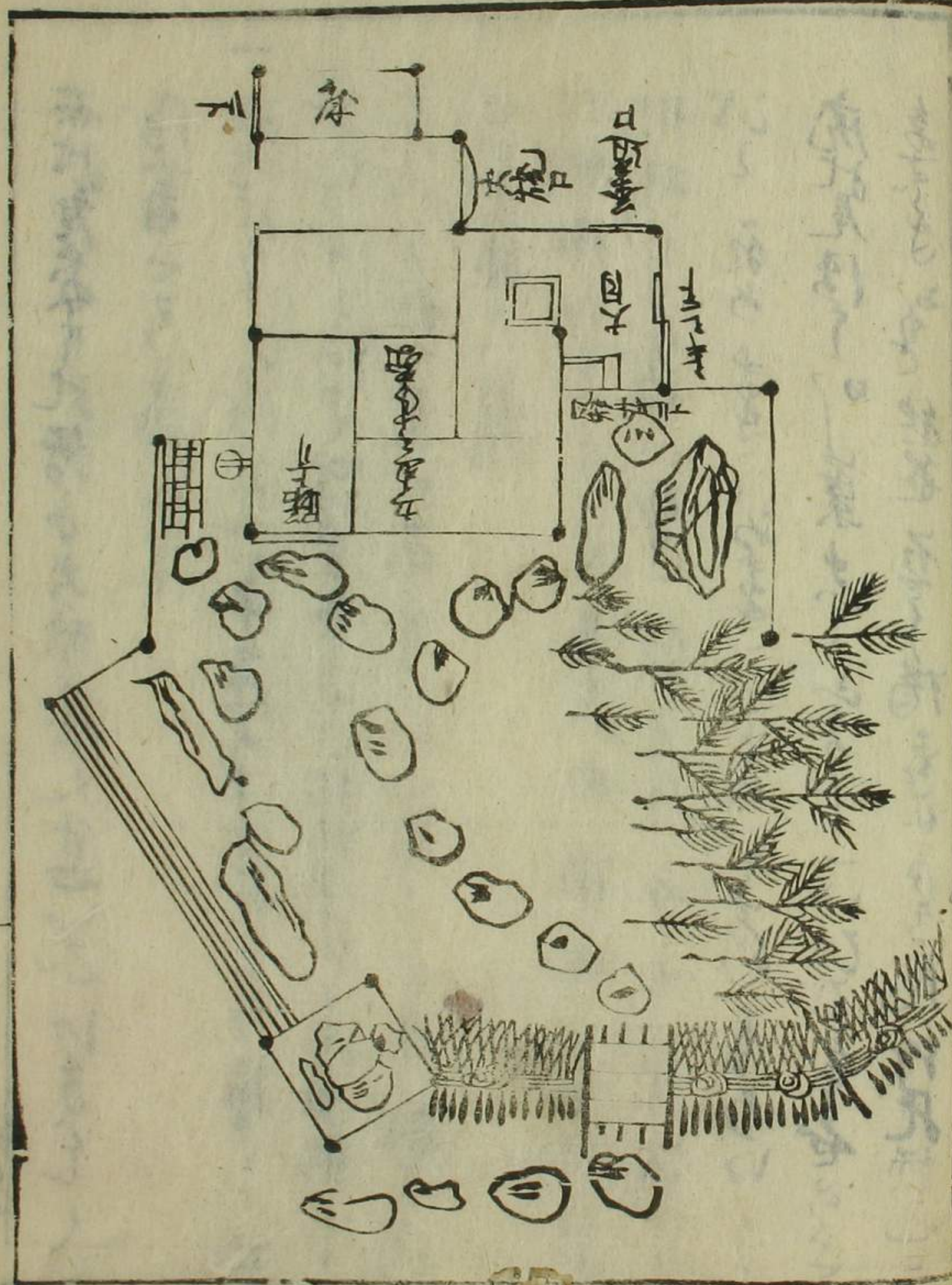


三ノ次九



山





右此種葉を此極子方秋葉之甚と云何なりと
作事なる事あり

一 洛北此く之類ハ先ハ平庭より其後其冬信了山信
と仰りし河は此等葉として花阿る事も極勿論なり
是れは極之葉此葉其きわまりありて其外一極之類
也口信極て然る

松楓梅などありて有矢秋推極とらざる葉
林極らん葉い極きびくらん多ありて此葉
びとれありてい極きてい極きその葉ありて
虎北尾ほく叶葉其いなり一いひををせと
多ありて此葉を極きは自ら花竹此類也二



